年報 2005

まほろん

年報二〇〇五©福島県文化財センター白河館

福島県教育委員会

[財]福島県文化振興事業団●福島県文化財センター白河館

まほろん

[財]福島県文化振興事業団●福島県文化財センター白河館

MAHORON

福島県文化財センター白河館
Fukushima Cultural Property Centre
Shirakawa Branch

再建された奈良時代の家

時代衣装を着てみよう

年報2005の発刊によせて

館　長　　藤　本　　強

「まほろん」の年報も５号になります。開館してから４年目の「まほろん」の記録を将来に遺すことがこの年報の目的です。詳しいことはそれぞれの担当者が書くことになっていますので、ここではごく大まかに代表的な出来事を述べておくことにします。入館者は３万１千人ほどで例年とほとんど変わりはないといえましょう。４月から６月にかけては館員の働きかけが功を奏して入館者の出足は例年になく好調なものでしたが、かきいれ時である夏休み期間は連日猛暑が続き、かなり入館者が落ち込みました。それに代わりいつも来館者が少ない冬場に、古代の球技である「毬杖」を導入したり、古代の双六を導入したりの効果がありまして、冬場にもかなりの人々においでいただきました。また、入館者の46％にあたる14,500人ほどの方々に体験学習を楽しんでもらいました。

「新編陸奥国風土記　巻之三　安積郡」を郡山市の郡山市民文化センターで移動展として開催したことも本年の話題でした。移動展は県内の各所でもっと開催したいのですが、予算や受入れ機関の問題で思うようにいかないのが残念です。このほか、春には収蔵資料展を、秋には指定文化財展を実施しています。

ボランティア事業も軌道に乗り、さまざまな活動をしてもらっています。7月には、開館３周年記念イベント「まほろん３周年だよ！　ボランティア2004」を主催してもらい、その中で日頃の活動を「ねぇ　ねぇ　来て　見て　ボラ展」として展示しました。９月にはサザンクロス県南方部との共催事業「縄文からのよみがえり」を、３月には企画イベントとして「天平の横笛、ふくしまの横笛」を行いました。ボランティア活動が成熟してきたことを示しています。

以上のように、館員あげての種々の努力で順調な運営を続けてきましたが、忍びよる将来への不安は大きなものがあります。平成18年春からの指定管理者制度の導入、それに関連する予算の減額、こうしたことが中長期的な見通しを暗いものにしています。いつまでも県民のまほろんであり続けたいと願っています。

目　　次

第１章　まほろんの沿革 …… 1
　1　開館までのあゆみ …… 1
　2　開館後のあゆみ …… 1

第２章　平成16年度組織と職員 …… 2
　1　まほろんの組織 …… 2
　2　職員名簿 …… 2

第３章　平成16年度予算 …… 3
　1　一般会計 …… 3
　2　物品販売特別会計 …… 3

第４章　平成16年度事業の概要 …… 4
　1　管理運営 …… 4
　　1．運営協議会 …… 4
　　2．出版物 …… 4
　2　資料管理事業 …… 5
　　1．収蔵資料数一覧 …… 5
　　2．資料貸出し …… 5
　　3．資料閲覧 …… 6
　3　情報発信事業 …… 7
　　1．ホームページによる情報発信 …… 7
　　2．データベースによる情報提供 …… 7
　　3．研究紀要 …… 7
　　4．まほろん通信 …… 8
　　5．館長講演会 …… 8
　　6．文化財講座 …… 8
　4　研修事業 …… 9
　　1．研修事業実施の概要 …… 9
　　2．実績 …… 9
　　3．研修実施状況 …… 9
　　4．今後の課題 …… 11
　5　体験学習事業 …… 12
　　1．常時体験型 …… 12
　　2．募集型 …… 12
　　3．館外体験学習支援事業 …… 13
　6　常設展事業 …… 14
　7　企画展事業 …… 17
　　1．移動展
　　「新編陸奥国風土記
　　巻之三　安積郡」…… 17
　　2．まほろん秋のてんじ
　　「ふくしまの重要文化財Ⅲ―考古資料
　　古墳時代・はにわ編―」…… 18
　　3．まほろん春のてんじ
　　「新編陸奥国風土記
　　巻之四　磐城郡」…… 20
　　4．研究復元 …… 22
　8　ボランティア運営事業 …… 24
　　1．登録 …… 24
　　2．活動内容 …… 24
　　3．ボランティア受け入れ体制 …… 25
　　4．ボランティア担当者の設置 …… 25
　　5．ボランティア研修 …… 25
　　6．ボランティア主催のイベント …… 26

第５章　平成16年度入館者統計 …… 27
　1　月別入館者数 …… 27
　2　区分別利用状況 …… 27
　3　団体利用状況 …… 28

第６章　まほろんの施設の概要 …… 29

第７章　まほろんの条例・規則 …… 31
　1　条例 …… 31
　2　条例施行規則 …… 31

第１章　まほろんの沿革

１　開館までのあゆみ

平成６年度
　福島県文化財保護審議会が､「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申
平成８年度
　「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定
平成９年度
　基本設計
平成10年度
　実施設計・用地取得・造成工事
平成11年度
　造成工事・建築工事
平成11年11月
　施設愛称を公募し「まほろん」に決定
平成12年３月
　シンボルマーク・ロゴマークの決定
平成12年度
　建築工事・環境整備工事・野外展示工事・屋内展示工事
平成13年３月27日
　福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定
平成13年度
　屋内展示工事
平成13年４月１日
　福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

工期　着工　平成11年７月12日
　　完成　平成12年10月16日

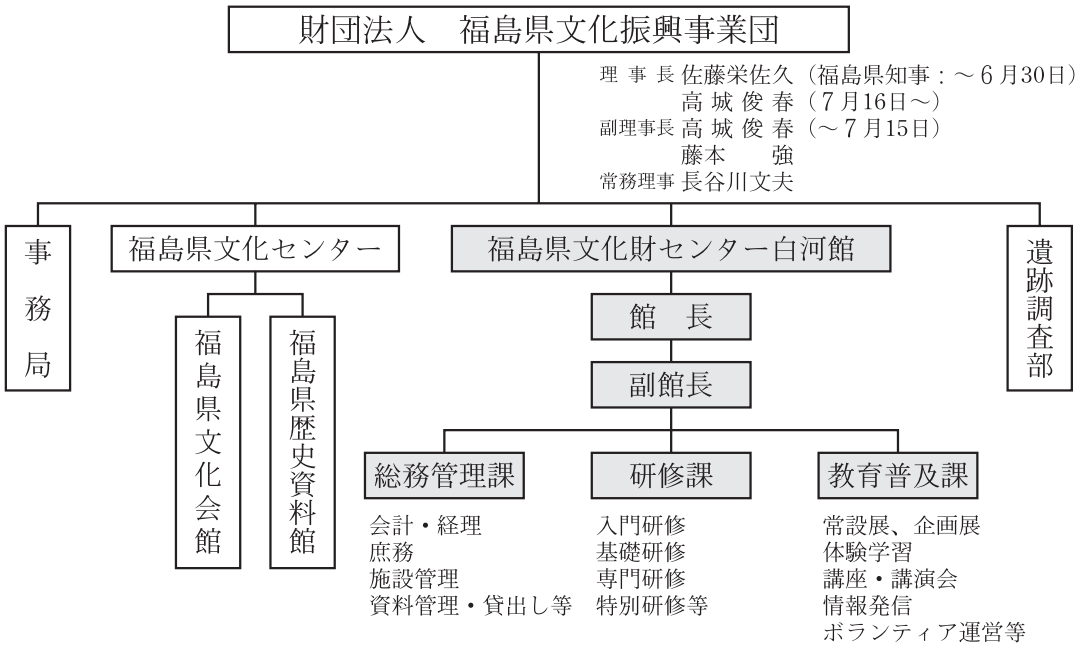
２　開館後のあゆみ

平成13年７月15日
　福島県文化財センター白河館開館記念式典
平成13年８月５日
　開館記念イベント「まるごと体験 まほろんろん」開催
平成13年８月17日　入館者１万人到達
平成14年１月26日　入館者３万人到達
平成14年７月21日
　開館１周年記念イベント「まほろん１周年だよ！ボランティア2002」開催
平成15年７月20日
　開館２周年記念イベント「まほろん２周年だよ！ボランティア2003」開催
平成16年２月28日　入館者10万人到達
平成16年７月24日～８月８日
　まほろん移動展「新編陸奥国風土記 巻之三 安積郡」郡山市民文化センター開催
平成16年７月25日
　開館３周年記念イベント「まほろん３周年だよ！ボランティア2004」開催
平成16年10月２日～12月５日
　平成16年度まほろん秋のてんじ「ふくしまの重要文化財Ⅲ－考古資料 古墳時代・はにわ編－」開催
平成17年３月12日～５月15日
　平成16年度まほろん春のてんじ「新編陸奥国風土記 巻之四 磐城郡」開催

第２章　平成16年度組織と職員

福島県文化財センター白河館は、福島県教育委員会から財団法人福島県文化振興事業団に管理運営業務が委託された事業を行う。財団法人福島県文化振興事業団の組織及び福島県文化財センター白河館の組織・業務の概要は以下のとおりである。

１　まほろんの組織



２　職員名簿

職名		氏名	職名		氏名
館長		藤本　強	教育普及課	課長	鈴鹿良一
副館長		横山公一		専門学芸員	森　幸彦
総務管理課	課長（兼務）	横山公一		主任学芸員	吉田秀享
	主査	渡邉広司		主任学芸員	藤谷　誠
	主任学芸員	吉田　功		主任学芸員	鈴木晴夫
	主事	枝松雄一郎		主任学芸員	木村直之
研修課	課長	山内幹夫		学芸員	大波紀子
	専門学芸員	石本　弘	職員数　17名		
	専門学芸員	福島雅儀	（内訳）派遣職員　７名		
	主任学芸員	五十嵐敏裕			
	副主任学芸員	青山博樹	財団職員　10名		

定数外

アテンダント（嘱託）５名
郡司知子
緑川千彩子
甲賀寿美恵
佐久間育子
小黒加容子

臨時事務補助員　２名
印田さやか
柳沼美和（４月）
影山智香（５月～）

第３章　平成16年度予算

1　一般会計

（単位：円）

収入			支出		
大科目	中科目	決算額	大科目	中科目	決算額
受託事業収入	文化財センター白河館管理事業	85,334,692	文化財センター白河館管理委託費	諸謝金	184,000
				旅費交通費	1,707,725
				消耗品費	13,438,002
事業補助金収入	文化財センター白河館運営事業	167,575,687		燃料費	291,461
				会議費	14,400
				印刷製本費	2,702,605
特定預金収入	退職給与引当金戻入収入	0		光熱水料費	11,641,321
				修繕料	2,858,979
				通信運搬費	5,246,383
雑収入	預金利息収入	530		手数料	634,667
				保険料	336,174
				委託料	32,843,852
				賃借料	13,269,150
				負担金	0
				租税公課	165,973
				小計	85,334,692
			文化財センター白河館運営補助費	報酬	14,672,355
				給料手当	126,875,049
				退職手当	0
				福利厚生費(人件費)	16,620,871
				退職手当引当金支出	4,552,555
				福利厚生費(物件費)	440,449
				災害補償費	0
				賃金	3,445,687
				諸謝金	55,400
				旅費交通費	700,805
				交際費	0
				会議費	0
				手数料	142,546
				負担金	70,500
				小計	167,576,217
合計		252,910,909	合計		252,910,909

2　物品販売特別会計

（単位：円）

収入		支出	
科目	決算額	科目	決算額
1. 事業収入		1. 事業費	
物品販売収入	3,631,680	販売物購入費	2,451,748
2. 雑収入		包装・宣伝費	263,642
自動販売機手数料	164,065	通信運搬費	35,248
公衆電話手数料	7,990	事務用品費	20,790
委託販売手数料	9,500	2. 人件費	
預金利息	15	給与	170,072
3. 繰越金		3. 租税公課費	
前年度繰越金	1,849,950	法人税・消費税等	146,402
		4. 長期借入金	
		長期借入金返済	500,000
合計	5,663,200	合計	3,587,902

第４章　平成16年度事業の概要

１　管理運営

１．運営協議会

福島県文化財センター白河館の運営に関し、館長の諮問に応じ、各種事業等の企画実施について審議するもので、委員は学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験から６名を委嘱している。

名　簿

岡田茂弘　国立歴史民俗博物館名誉教授
　　前東北歴史博物館長（会長）
渡邉一雄　福島県考古学会顧問（副会長）
藤田克彦　西白河小中学校長連合協議会会長
　　白河第二小学校校長
和知　延　白河市文化財保護審議会委員
　　鹿嶋神社宮司
結城光夫　独立行政法人国立少年自然の家
　　国立那須甲子少年自然の家所長
山崎京美　いわき短期大学助教授

会　議

平成16年度第１回運営協議会
　日　時　平成16年８月27日（金）
　場　所　福島県文化財センター白河館会議室
　議　事
　　⑴　福島県文化財センター白河館の運営状況について
　　⑵　福島県文化財センター白河館の課題及び中期計画について
　　⑶　アンケート調査集計結果について
　　⑷　その他

平成16年度第２回運営協議会
　日　時　平成17年３月11日（金）
　場　所　福島県文化財センター白河館会議室
　議　事
　　⑴　平成16年度福島県文化財センター白河館の運営状況について
　　⑵　平成17年度福島県文化財センター白河館の事業計画について
　　⑶　アンケート調査集計結果について
　　⑷　その他

２．出　版　物

・福島県文化財センター白河館年報2004
・福島県文化財センター白河館研究紀要2004
・まほろん通信（VOL.12～VOL.15）

出版物（まほろん通信・年報・研究紀要）

2　資料管理事業

1．収蔵資料数一覧

（箱）

	遺　物	写　真	図　面	地図・カード類	合　計
一般収蔵庫	38,633	2,394	802	503	42,332
特別収蔵庫	388				388
合　計	39,021	2,394	802	503	42,720

＊1　一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱
＊2　特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2．資料貸出し

遺　物

（点）

日　付	貸　出　先	貸　出　目　的	資　料　名	数量
4月7日	小山市立博物館	企画展「縄文人の知恵と力」	福島市弓手原Ａ遺跡出土硬質頁岩の剥片	28
			飯舘村稲荷塚Ｂ遺跡出土粘板岩製石刀・粘板岩の剥片	7
6月18日	仙台市富沢遺跡保存館	特別企画展「石と鉄の考古学　石器の終わりと鉄器の始まり」	いわき市白岩堀ノ内遺跡出土鉄製銛	1
7月8日	百済武寧王展実行委員会	特別企画展「秘められた黄金の世紀展－百済武寧王と倭の王たち－」	東村笊内古墳群出土馬具	24
7月16日	ミュージアム氏家	企画展「ガラス色々」	会津高田町下堀際遺跡出土ガラス製コップ・ガラス製ランプ火屋	2
			相馬市鷲塚遺跡出土ガラス製瓶	1
			相馬市今神遺跡出土ガラス製容器	1
			三春町宮ノ下Ａ遺跡出土ガラス製メンコ	2
			三春町蛇石前遺跡ガラス製品	1
			須賀川市早稲田古墳群出土ガラス製数珠	1
			合　計	68

写　真

（点）

日　付	貸　出　先	掲載刊行物等	資　料　名	数量
4月27日	郡山市立大成小学校	小学校社会科教材用写真パネル	「磐梯町法正尻遺跡と磐梯山」ほか	2
6月1日	仙台市富沢遺跡保存館	特別企画展「石と鉄の考古学　石器の終わりと鉄器の始まり」図録等	いわき市白岩堀ノ内遺跡出土鉄製銛	1
6月8日	ミュージアム氏家	企画展「ガラス色々」図録等	会津高田町下堀際遺跡出土ガラス製コップほか	8
6月23日	新潟県立歴史博物館	企画展「越後佐渡の古代人ロマン～行き交う人々の姿を求めて～」図録	まほろんガイド「弓を射る白河軍団兵士復元模型」ほか	10
6月23日	多賀城市教育委員会	企画展「街道点描－古代のみち、中世のみち－」パネル	まほろんガイド「多賀城へ向かう白河軍団兵士復元模型」	1
6月27日	郡山市教育委員会	「第10回市内遺跡発掘調査成果展」パネル	郡山市正直Ｃ遺跡空中写真ほか	5
6月29日	新潟県立歴史博物館	企画展「越後佐渡の古代人ロマン～行き交う人々の姿を求めて～」図録	まほろんガイド「白河軍団兵士復元模型２体」・弩復元品ほか	7
8月19日	白河市教育委員会	「白河市史　通史編１」	玉川村江平遺跡出土木簡ほか	3
9月7日	会津若松市	「会津若松市史　歴史編　古代２・中世１」	まほろんガイド「弓を射る白河軍団兵士復元模型」	1
9月7日	白河市教育委員会	「白河市史　通史編１」	白河市一里段Ａ遺跡出土土器・石器	4
9月15日	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	企画展「律令国家の展開」図録・パネル	白河軍団兵士復元模型２体	2
10月21日	船引町教育委員会	企画展「船引町の歴史と文化財」パネル	まほろんガイド「縄文時代の家」・「前方後円墳」・「平安時代の製鉄炉」ほか	5
11月25日	株式会社吉川弘文館	「文字と古代日本　４」	玉川村江平遺跡出土木簡	1
11月25日	長沼町教育委員会	「長沼町史　第１巻　通史編」	ホームページ「縄文土器煮沸状況写真」ほか	2
12月9日	西会津町教育委員会	「西会津町史　別巻３・考古資料」	西会津町六郎次遺跡遠景ほか	27
12月21日	福島市教育委員会	「ふくしまの歴史１　原始・古代」	福島市孫六橋遺跡出土土器ほか	32
12月21日	東京法令出版株式会社	「千葉のあゆみ」	まほろんガイド「砂鉄から鉄をつくる」	1
1月18日	芝山古墳・はにわ博物館	常設展示パネル・図録	まほろんガイド「古墳時代の食卓」	1
1月19日	盛岡市遺跡の学び館	埋蔵文化財調査資料展「盛岡を発掘する」パネル	まほろんガイド「奈良時代の家」	1
2月3日	東北歴史博物館	特別展「古代の旅」図録・パネル	相馬市山田Ａ遺跡出土獣脚鋳型ほか	17
2月3日	個人	「福島考古　第46号」論文	飯舘村稲荷塚Ｂ遺跡出土石器	3
2月3日	財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団	「クロスポイント　ＶＯＬ.11」	郡山市高林遺跡全景ほか	2
2月15日	財団法人日本レクリエーション協会	月刊「RECレクリエーション　2005年３月号」	「第１回毬杖大会の競技状況」	1

日　付	貸　出　先	掲　載　刊　行　物　等	資　料　名	数量
2月15日	個人	「宮城考古学　7」論文	飯舘村松ヶ平A遺跡出土土器ほか	13
2月15日	個人	「ふくしまの遺跡」	飯舘村松ヶ平A遺跡遠景ほか	2
2月25日	棚倉町教育委員会	「わたしたちの町たなぐら」（社会科副読本）	まほろんガイド「暮らしのうつりかわり」	7
3月19日	個人	「ふくしまの遺跡」	二本松市矢ノ戸遺跡近景ほか	2
3月31日	千葉県立房総のむら	トピック展「竪穴住居」パネル	要覧「縄文時代の家」	1
			合　計	162

その他

（点）

日　付	貸　出　先	貸　出　目　的	資　料　名	数量
8月19日	白河市教育委員会	「白河市史　通史編1」	いわき市白岩堀ノ内遺跡出土鉄製鋲図面	1
			玉川村江平遺跡出土木簡図面・遺構配置図	3
10月1日	新潟県立歴史博物館	企画展「越後佐渡の古代人ロマン～行き交う人々の姿を求めて～」	軍団兵士復元模型	2
			軍防令による兵士装備復元品	2
			弩復元品	1
			弩機復元品	1
12月9日	西会津町教育委員会	「西会津町史　別巻3・考古資料」	西会津町六郎次遺跡図面	8
			西会津町塩喰岩陰遺跡図面	87
			西会津町羽黒山館跡図面	9
			合　計	114

3．資料閲覧

遺　物

（点）

日　付	閲　覧　者	閲　覧　目　的	資　料　名	数量
5月15日	個人	個人研究の資料調査	飯舘村岩下A遺跡出土石器ほか	46
5月28日	個人	個人研究の資料調査	白河市一里段A遺跡出土旧石器ほか	838
6月19日	会津高田町教育委員会職員	調査報告書作成の資料調査	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	831
7月4日	個人	個人研究の資料調査	福島市弓手原A遺跡出土縄文土器ほか	144
7月6日	青森県立郷土館職員	個人研究の資料調査	富岡町本町西A遺跡出土勾玉ほか	3
7月29日	個人	個人研究の資料調査	桑折町平林遺跡出土旧石器	100
8月4日	東北歴史博物館職員	特別展借用資料の実見	玉川村江平遺跡出土木簡ほか	15
8月10日	個人	個人研究の資料調査	会津若松市屋敷遺跡出土弥生土器ほか	726
8月12日	個人	修士論文作成の資料調査	三春町柴原A遺跡出土石器	300
9月1日	個人	修士論文作成の資料調査	泉崎村関和久遺跡出土瓦	3
9月8日	個人	個人研究の資料調査	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器ほか	20
9月17日	個人	博士論文作成の資料調査	相馬市善光寺遺跡出土須恵器ほか	353
9月22日	遺跡調査部職員	研究協議会資料の実見	飯舘村松ヶ平A遺跡出土縄文土器ほか	246
10月8日	個人	個人研究の資料調査	天栄村桑名邸遺跡出土大珠ほか	2
10月23日	津南町遺跡整理室職員	調査報告書作成の資料調査	会津高田町鹿島遺跡出土石器ほか	176
10月26日	個人	個人研究の資料調査	郡山市弥明遺跡出土旧石器	13
11月18日	個人	個人研究の資料調査	会津若松市和泉遺跡出土弥生土器ほか	280
12月1日	福島市教育委員会職員	出版物掲載予定資料の実見	福島市孫六橋遺跡出土弥生土器ほか	50
12月11日	個人	修士論文作成の資料調査	国見町川原遺跡出土縄文土器ほか	82
12月15日	遺跡の案内人（ボランティア）	研修	飯舘村羽白C遺跡出土縄文土器ほか	146
12月19日	遺跡調査部職員	個人研究の資料調査	須賀川市五十堀田A遺跡出土羽口ほか	97
12月23日	個人	個人研究の資料調査	石川町古宿遺跡出土土師器ほか	780
1月7日	個人	個人研究の資料調査	西会津町塩喰岩陰遺跡出土骨角器	12
1月20日	遺跡調査部職員	調査報告書作成の資料調査	会津若松市能登遺跡・屋敷遺跡出土弥生土器ほか	607
2月4日	（財）山形県埋蔵文化財センター職員	調査報告書作成の資料調査	磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	179
3月1日	個人	個人研究の資料調査	飯舘村松ヶ平A遺跡出土縄文土器ほか	529
3月21日	個人	修士論文作成の資料調査	石川町上悪戸遺跡出土旧石器ほか	53
			合　計	6,631

その他

（点）

日　付	閲　覧　者	閲　覧　目　的	資　料　名	数量
9月11日	個人	個人研究の資料調査	荒井猫田遺跡第1～6次発掘調査報告書ほか	9
12月12日	個人	卒業論文作成の資料調査	霊山・根古屋遺跡調査報告書ほか	5
3月26日	個人	修士論文作成の資料調査	浜井場古墳群埋蔵文化財発掘調査報告書ほか	21
			合　計	35

３　情報発信事業

１．ホームページによる情報発信

４月からのアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は40,751件で、月平均3,396件となっている。年度ベースでは、昨年度よりも320件減少している。

月	月間アクセス数	累計アクセス数
４月	3,630	91,330
５月	3,793	95,123
６月	4,048	99,171
７月	3,557	102,728
８月	3,336	106,064
９月	3,418	109,482
10月	3,496	112,978
11月	3,243	116,221
12月	2,843	119,064
１月	3,024	122,088
２月	3,036	125,124
３月	3,327	128,451

２．データベースによる情報提供

a　アクセス数の推移

平成16年度のアクセス数を下表に示した。データベースの年間アクセス数は33,058件、月平均アクセス数は2,755件となっている。平成15年度の月平均アクセス数が25,925件であり、約7,100件程増加している。

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
遺跡	1,542	1,069	1,120	1,024	929	1,419
遺物	509	749	1,156	648	657	657
写真	435	508	657	571	587	533
文献	199	260	312	217	230	251
合計	2,685	2,586	3,245	2,460	2,403	2,860
	10月	11月	12月	１月	２月	３月
遺跡	960	1,273	1,112	1,042	850	1,647
遺物	710	859	739	797	964	873
写真	505	488	535	685	587	490
文献	235	377	327	374	178	212
合計	2,410	2,997	2,713	2,898	2,579	3,222

b　データの入力

平成14年度に遺跡調査部の文化財センター整備班で入力されたデータ及び当館で入力している「遺物写真データベース」及び「文献データベース」の入力を行った。

入力数を別表として示した。合計入力数は、12,172件となっている。

種　　類	入　力　数	累　　計
遺跡（基本データ）	5	13,690
遺跡（調査台帳）	41	3,534
遺物	3,002	207,122
遺物写真	6,725	8,811
写真	766	43,596
文献	1,633	8,207
合計	12,172	284,960

３．研 究 紀 要

研究紀要目次

－研究論考－

・まほろんイベント「鉄づくり」報告（吉田秀享）

・まほろん１号炉（原町市大船廹Ａ遺跡15号製鉄炉の復元炉）における操業条件（佐藤健二）

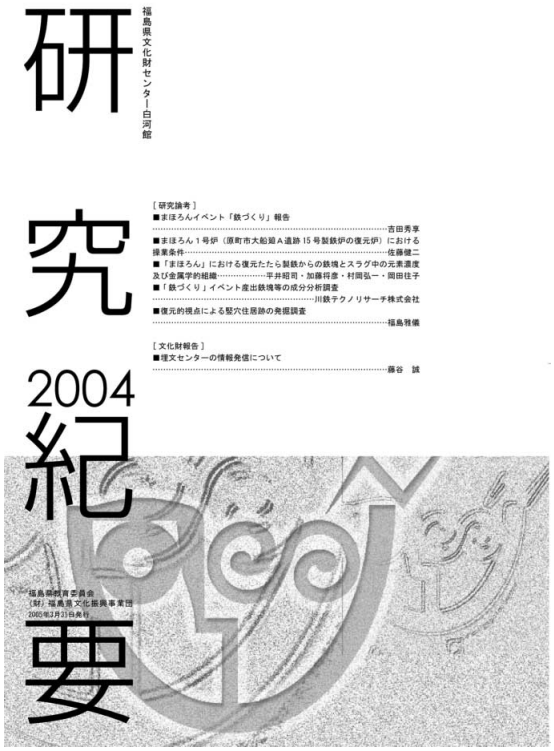
・「まほろん」における復元たたら製鉄からの鉄塊とスラグ中の元素濃度及び金属学的組織（武蔵工業大学　平井昭司・加藤将彦・村岡弘一・岡田往子）

・「鉄づくり」イベント産出鉄塊等の成分分析調査（川鉄テクノリサーチ株式会社）

・復元的視点による竪穴住居跡の発掘調査（福島雅儀）

－文化財報告－

・埋文センターの情報発信について（藤谷誠）



研究紀要2004表紙

４．まほろん通信

４月15日、７月15日、10月15日、１月15日の４回、5,000部を発行した。概要は以下となっている。

a　まほろん通信VOL.12（４月15日発行）

・石器を作る
・研修課より(「体験学習支援研修」のご案内)
・総務管理課より(まほろん入館者10万人達成)
・製鉄イベント報告その２
・今年度の行事予定

b　まほろん通信VOL.13（７月15日発行）

・炭づくりイベント
・体験学習（実技講座「耳飾りづくり」）
・ボランティアイベント(「まほろん３周年だよ！ボランティア2004」)
・まほろん移動展（新編陸奥国風土記）
・シリーズ復元展示（鉄製梵鐘の復元）
・研修課より(教職員発掘調査体験研修案内)
・総務管理課より（まほろんの謎２）

c　まほろん通信VOL.14（10月15日発行）

・体験発掘ツアー

まほろん通信

VOL.15
（平成17年1月15日発行）
（財）福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
白河市白坂字一里段86
TEL 0248-21-0700（代）
FAX 0248-21-1075
URL http://www.mahoron.fks.ed.jp

今年度のおでかけまほろん

「おでかけまほろん」は、当館の職員が学校等に出向いて体験学習を支援する事業で、今年度は、15の学校や市町村教育委員会のみなさんにご利用いただきました（延べ利用人数約600名）。種類別の内訳は、小学校13校、中学校１校、市町村教育委員会１ヵ所です。また、地方別では、中通り７ヵ所、浜通り４ヵ所、会津４ヵ所となっています。

体験学習メニューでは、火おこし体験が一番の人気で、14の学校・団体で実施しました。今年度は、この中でも学校行事の中に火おこし体験を組み込んだ学校があったことが、例年にない特徴となっています。上の写真は９月１日に舘岩村立舘岩小学校で行われた全校行事「川遊び」の中での１コマで、捕まえた魚を焼くためのカマドの種火として活用いただきました。他に天栄村立湯本小学校では全校行事「ふれあい交流会」の芋煮を作るカマドの種火として活用いただいています。おでかけまほろんで提供する様々な体験学習メニューを社会科の授業にそのまま活用するだけでなく、学校行事の一環として活用していただくのもまた面白い活用方法かと思います。

来年度は、17ヵ所でおでかけまほろんを実施する予定です。２月初めに募集しますので、どうぞお申し込みください。

まほろん通信VOL.15表紙

d　まほろん通信VOL.15（１月15日発行）

・体験学習（実技講座「カラムシから布をつくろう」）
・まほろん秋のてんじ（ふくしまの重要文化財Ⅲ―考古資料　古墳時代・はにわ編―）
・シリーズ復元展示（鉄製梵鐘の復元）
・研修課より(「教職員のための発掘体験研修」)
・総務管理課より（メッツの竹内君、活動100ポイント達成！）

d　まほろん通信VOL.15（１月15日発行）

・本年度のおでかけまほろん
・今年度のまほろん探検隊
・春のてんじ案内（新編陸奥国風土記－巻之四　磐城郡－）
・研修課より（時代別研究研修）
・総務管理課より（まほろん紹介）

５．館長講演会

平成16年度は、「考古学からみたごはんとパン」をテーマとして年に６回の講演会を実施した。各回ごとの内容と参加人数は下表の通りである。

月　日	テ　ー　マ	参加人数
４月24日	第１回　稲と麦のひろがり	21
５月15日	第２回　稲作農耕の起源	22
６月26日	第３回　稲のひろがりと日本	26
10月23日	第４回　麦作りができるまで	20
11月27日	第５回　麦のひろがり	17
12月18日	第６回　世界の食文化を考える	18

６．文化財講座

当館職員の多くが当事業団遺跡調査部から異動した職員で、数多くの発掘調査を手がけている職員が多くいる。そのため、本年度から職員が発掘調査した遺跡について写真スライドと遺物の実物を使って、一般の参加者にお話しする「私が掘ったあの遺跡」シリーズを立ち上げた。

第１回「私が掘ったあの遺跡－県北－」
　日　時　２月12日
　講　師　鈴鹿良一教育普及課長
　参加者　15名

第２回「私が掘ったあの遺跡－いわき－」
　日　時　３月12日
　講　師　本間宏文化財主査
　参加者　12名

４　研修事業

１．研修事業実施の概要

平成16年度の研修は、入門研修６回、基礎研修５回、専門研修６回、特別研修６回を実施した。これらの期日指定の研修以外に、受講者の希望に応じて行う臨時館内研修を７回、職員派遣研修を14回実施している。平成16年度に研修を実施した日数は延べ87日、研修の参加者は316人である。

２．実　　績

平成16年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。市町村等で文化財の保護に携わる職員は、前年度より12人多い149人で、全体の47.2％占めている。次に多い参加者も昨年度に引き続き、文化財関係の市民ボランティアである。104人で32.9％を占めている。教職員参加者は44人で13.9％となっている。教職員も安定した受講者層となっている。その他一般人・学生が19人で６％であった。

３．研修実施状況

⑴　入 門 研 修

入門研修は、下表に示したとおり資料整理・遺物実測・埋蔵文化財事務・表面調査の各研修をそれぞれ１回ずつと、入門考古学講座を２回実施した。

資料整理研修は、発掘調査で出土した遺物や写真・実測図などの記録類を、速やかに公開できるように、適切な整理・保管する方法や手順を習得する研修である。講師は研修課職員が当たり、４月21日～23日の３日間行なった。受講者は文化財担当職員２名だった。

遺物実測研修は遺跡から出土した土器や石器などの実測方法を学ぶ研修で、受講者の希望に応じて遺物を選択できる。５月22日に研修課職員が講師となって実施した。文化財担当職員が２名参加し、今回は土師器と縄文土器の実測を研修した。

埋蔵文化財事務研修は６月９・10日の両日に実施した。県教育庁生涯学習領域文化財グループの丹野隆明氏、県文化振興事業団遺跡調査部

平成16年度文化財研修実施一覧

区分	研　修　名	内　　容	期　　間	場　所
入門研修	資料整理研修	出土品や調査記録類の整理法を研修する	４月21日～４月23日	館内
	遺物実測研修	資料の観察と実測の方法を学ぶ研修	５月22日	館内
	埋蔵文化財事務研修	埋蔵文化財事務を円滑に行うための研修	６月９日～６月10日	館内
	入門考古学講座Ⅰ	考古学の基礎や福島の各時代に関する入門的な研修	７月３日	館内
	入門考古学講座Ⅱ	考古学の基礎や福島の各時代に関する入門的な研修	12月11日	館内
	表面調査研修	表面調査の方法の研修	３月15日～３月18日	矢吹町
基礎研修	試掘調査研修	試掘調査と遺跡範囲の決定の方法を学ぶ研修	６月15日～６月18日	白河市
	保存処理研修	金属・有機質遺物の保存処理の研修	11月11日	福島市
	土器復元研修	破片の接合や欠損部分の補修など土器の修復を学ぶ研修	11月13日	館内
	遺跡調査技術研修Ⅱ	竪穴住居跡の調査・記録方法の研修	１月27日～１月28日	館内
	報告書作成研修	見やすく分かりやすい調査報告書を作るための研修	２月18日～２月19日	館内
専門研修	史跡整備研修	史跡整備のための調査・記録・事務手続きの研修	８月25日	館内
	遺跡調査技術研修Ⅰ	さまざまな遺跡の調査技術を習得する研修	９月７日～９月10日	湯川村
	専門考古学講座Ⅰ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	11月13日	館内
	時代別研究研修	時代別の専門的研修	12月８日～12月９日	館内
	官衙遺跡研究研修	官衙遺跡の特徴と調査の方法	１月12日～１月14日	館内
	専門考古学講座Ⅱ	文化財や考古学の専門的知識を深める講座	２月19日	館内
特別研修	体験学習支援研修Ⅰ	文化財を教材とする方法を学ぶ研修	５月１日～５月２日	館内
	体験学習支援研修Ⅱ	文化財を教材とする方法を学ぶ研修	７月21日～７月23日	館内
	教職員発掘調査体験研修	発掘調査を体験し，学校教育・社会教育に役立てる研修	８月４日～８月６日	船引町
	無形の文化財研修	無形の文化財の基礎知識と調査方法概論	11月10日～11月12日	館内
	体験学習支援研修Ⅲ	文化財を教材とする方法を学ぶ研修	10月23日～10月24日	原町市
	体験学習支援研修Ⅳ	文化財を教材とする方法を学ぶ研修	２月５日～２月６日	館内
	市町村職員長期研修	文化財行政担当者としての全般的な知識を学ぶ研修	臨時的	館内
	臨時館内研修	遺物実測など要望に応じ個別に白河館で対応する研修	臨時的	館内
	職員派遣研修	市町村等の要請によって随時，職員を派遣して行う研修	臨時的	館外

の寺島文隆氏と斎藤幹夫氏が講師を務め、埋蔵文化財保護行政の実際や遺跡調査の安全管理について講義していただいた。特に遺跡調査の安全管理について感心が集まり、18人の文化財担当職員が受講した。

入門考古学講座は年２回開催している。第１回は７月３日に県文化振興事業団遺跡調査部の玉川一郎氏に「貝塚の話」と題して小高町浦尻貝塚を例に挙げて講義をしていただいた。受講者はボランティアを中心に35名だった。第２回は12月11日に東北歴史博物館の工藤雅樹館長を講師に迎え、「律令時代の福島県」を演題に講座を実施した。この研修にも32名のボランティアが受講した。受講者は全部で36名だった。

表面調査研修は遺跡調査の初期段階に行われる表面調査の方法を習得する科目である。今回は矢吹町の新発見の古墳群を対象に、表面調査による古墳の把握方法を研修した。講師は研修課職員が当たり、受講者は７名で、平成17年３月15～18日までの４日間実地研修を行った。

⑵　基 礎 研 修

基礎研修は、試掘調査・保存処理・土器復元・報告書作成の各研修をそれぞれ１回ずつ、遺跡調査技術研修を２回実施した。

試掘調査研修は、遺跡の一部を発掘して遺跡の範囲や営まれた時代を調査する方法を研修する。６月15日～18日の４日間、白河市教育委員会が実施している芳野遺跡の試掘調査現場を会場に実施した。研修課職員が講師を務め、４名が参加して調査方法を実習した。

遺跡調査技術研修Ⅱは、平成17年１月27･28日の両日に行った。まほろんを会場に行った座学で、竪穴住居跡の調査方法とその復元について研修課職員が講義を行った。受講者は15名だった。

保存処理研修は金属質遺物や有機質遺物を劣化から守る保存処理技術について学ぶ研修である。県文化振興事業団遺跡調査部の奥山誠義氏が講師を務め、11月11日に遺跡調査部の渡利分室で研修を実施し、文化財担当職員６名が受講した。

土器復元研修は今年度からはじめて取り入れた研修で、いわき市教育文化事業団理事の松本友之氏を講師に迎え、土器の接合や欠損部分の補修を実際の土器を使って実習した。11月13日に実施し、文化財担当職員や教員、ボランティアなど10名が受講した。１名埼玉県からの受講者も含まれる。

報告書作成研修は報告書の原稿執筆、挿図・図版の作成、編集などの一連の作業を学習する研修である。平成17年２月18･19日の２日間館内で実施した。

⑶　専 門 研 修

専門研修では、史跡整備・時代別研究・遺跡調査技術・官衙遺跡研究の各研修を各１回ずつと、専門考古学講座を２回実施した。

史跡整備研修は、８月25日に実施した史跡整備を行うための諸手続きや範囲確認などの発掘調査の実際を習得する研修である。今回は多くの史跡整備を手がけている栃木県小川町の栃木県立なす風土記の丘資料館学芸員の眞保昌弘氏に講師をお願いし、古墳を中心とした那須地方の遺跡の史跡整備について講義していただいた。受講者は文化財担当職員６名で、活発な質疑も行われた。

遺跡調査技術研修Ⅰは９月７日～10日の４日間行った。県文化振興事業団遺跡調査部が調査した湯川村桜町遺跡で方形周溝墓の調査方法について研修した。受講者は文化財担当職員３名だった。

専門考古学講座は考古学のより深い知識を得たいと考えている受講者を対象とした研修で、年２回実施した。第１回は11月13日にまほろんを会場として実施し、藤本強館長が「測量の基準― 日本測地系から世界測地系へ ―」をテーマに遺跡の測量技術について講義した。受講者は９名だった。第２回は山形大学人文学部の三上

時代別研究研修のようす

喜孝助教授を講師に迎え、「墨書土器研究の可能性」と題して講演していただいた。受講者は25名で、入門考古学講座と同じくボランティアの参加が多かった。

今回の時代別研究研修はまほろん収蔵の縄文晩期から弥生初期の土器を実見しながら、県文化振興事業団遺跡調査部の芳賀英一氏に、縄文時代から弥生時代の移行期の土器について講義していただいた。12月10･11日の両日に行い、参加者は13名だった。

今年の官衙遺跡研究研修は「郡衙をめぐる交通と寺院」を主題として実施した。郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団の高田勝氏や、原町市教育委員会の藤木海氏に事例報告をいただいた。県文化振興事業団遺跡調査部の木本元治氏には福島県や隣県の遺跡から古代の交通路や寺跡について、奈良文化財研究所の山中敏史氏には、全国的な事例や文献を挙げて郡衙を結ぶ交通路や駅家などの施設、郡衙にかかわる寺院について講義していただいた。文化財担当職員を中心に23人の受講者があった。１月12～14日の３日間行い、23名が受講した。

⑷　特 別 研 修

特別研修は、教職員発掘調査・無形の文化財の各研修をそれぞれ１回ずつ、体験学習支援研修を４回実施したほか、不定期の臨時館内研修・職員派遣研修を実施した。

教職員発掘体験研修は船引町の大平遺跡発掘調査現場を会場に、縄文時代の遺跡調査を体験した。３日目には市内の文化財見学も行った。教職員のほかにボランティアなどの参加もあり、受講者は15名だった。

教職員発掘調査体験研修のようす

体験学習支援研修は４回実施した。第１回と第４回は土器作り体験における指導方法を習得する研修で、５月１日と２日および翌平成17年の２月５日と６日に実施した。その後５月16日と２月20日にそれぞれ野焼きによる焼成方法を実習した。第２回は体験学習に用いる機材のうち、まいぎりと布編み台の製作を実習した。第３回は原町市の桜井古墳公園ガイダンス施設を会場に石包丁を題材に石材の採取から製作までの過程を研修した。受講者は全部で22名だった。

無形の文化財研修は県教育庁生涯学習領域文化財グループの鑓水実氏と県文化振興事業団遺跡調査部の大山孝正氏を講師にお願いし、11月10～12日の３日間、無形の文化財保存に関わる調査・記録方法について学習した。受講者は７名で、文化財担当職員を始め、一般からの参加もあった。

臨時館内研修は、７回実施し、11名の人達が利用した。研修内容は土器の復元、報告書作成、土器作りに関する研修などだった。職員派遣研修は西郷村の土器作りに関わる研修をはじめとして11回の研修を実施し、34名が受講した。このほかに発掘調査や遺物実測の研修などで会津高田町や船引町などに職員を派遣した。

４．今後の課題

研修受講者は昨年に比べ増加している。これはまほろんの研修が各市町村の文化財担当職員などに確実に浸透し、評価されてきていると考えられる。文化財関係の市民ボランティアの研修参加も昨年に引き続き増えてきた。

しかし、一方では研修ごとの受講者数を見たときに、受講者数に格差のあることがわかってきた。「試掘調査研修」などの考古学の基礎調査に関する研修は受講者が伸びず、「専門考古学講座」など、より専門性の高い研修に多くの受講者が集まってきている。また、ボランティアは調査技術よりも考古学の基礎的な知識を得ようとしているようである。このようなことから、今後は受講者の少ない科目は臨時館内研修などで対応し、人気のある研修科目を充実させつつ、受講対象者のニーズにあった研修を考えていかなければならない。

5　体験学習事業

平成16年度に実施した体験学習プログラムとその実績は、以下のとおりである。

1．常時体験型

⑴　個人対応メニュー

体験活動室において、個人を対象とした体験学習メニューである。２週間ごとに、「勾玉・管玉づくり」の他にもう１メニューを加えて複数メニューで実施した。ただし、「土器づくり」は対応職員を確保するため単独メニューで行った。

新メニューとして、「ウグイス笛づくり」、「凧づくり」、『昔の玩具』の中に「貝合わせ」が登場した。

体験活動室実施状況

内　　容	参加者数	内　　容	参加者数
勾玉づくり	2,135人	火おこし	355人
管玉づくり	174人	土器づくり	129人
ガラス玉	297人	土器拓本	46人
クレヨン象嵌	226人	貝輪づくり	26人
ウグイス笛づくり	123人	原始機	88人
七夕飾り	44人	時代衣装	158人
凧づくり	15人	昔の玩具	339人

体験活動室のようす

⑵　団体対応メニュー

事前に予約された団体への体験学習メニューである。メニューは下記のとおりである。「土器づくり」「アンギン編み」には対応可能な人数に制限が設けられている。今年度から「管玉づくり」が加えられた。

常時体験型メニューの中では、個人、団体対応ともに「勾玉づくり」の体験者数が圧倒的に多い。個人対応メニューに新しく加わった「ウグイス笛」が好評であった一方、「土器づくり」への体験者数が下降傾向にある。

体験者数の集計では、当館への来館者の半数が何らかの体験学習に参加しており、当館の特色を反映した数値となっている。次年度以降も、学校単位での団体予約数は増加することが予想され、体験者の増加が見込まれる。

団体実施状況

内　　容	参加者数	内　　容	参加者数
勾玉づくり	4,252人	火おこし	3,610人
管玉づくり	80人	アンギン編み	38人
土器さわり	2,113人	時代衣装	14人
土器づくり	47人		

体験者数内訳合計と来館者数の比率

活動室計	4,264人	活動室比率	13.70%
団体計	10,154人	団体比率	32.70%
体験者合計	14,418人	体験者比率	46.40%
来館者数	31,088人		

2．募　集　型

⑴　実 技 講 座

主として考古資料から昔の技術にふれることを目的として行っている。定員は原則20名とし先着順とした。今年度は、前年度よりメニュー数を増加し、月に１～数回程度の12講座19回を開講した。気候や立地の条件もあり、春先と冬季の体験者数が伸び悩んでいる。

新規講座の「埴輪づくり」は、秋の指定文化財展期間に合わせており、展示された本物の埴輪を観察して充実したものとなった。他に新たに開講された「耳飾りづくり」「縄文時代の櫛づくり」「古銭づくり」は、次年度以降でさらに発展させていきたい。

実技講座実施状況

	内　　容	実　施　日	参加者数
1	土器づくり その１	４月18日	6人
2	土器の野焼き その１	雨のため順延	
3	耳飾りづくり	５月22日	14人
4	土器・耳飾りの野焼き	６月19日	33人
5	カラムシから布をつくろう１	７月10日	16人
6	土器づくり その２	８月１日	20人
7	土器の野焼き その２	８月22日	31人
8	カラムシから布をつくろう２	８月28日	19人
9	土器づくり その３	９月19日	16人
10	カラムシから布をつくろう３	10月２日	14人
11	埴輪づくり	10月24日	15人
12	土器・埴輪の野焼き その３	11月14日	72人
13	土器づくり その４	11月21日	11人
14	凧づくり	12月11日	22人
15	土器の野焼き その４	12月19日	22人
16	土器づくり その５	１月16日	4人
17	石器づくり	１月22日	６人
18	縄文時代の櫛づくり	２月13日	10人
19	土器の野焼き その５	２月20日	6人
20	古銭づくり	３月13日	14人

⑵　イベント

①昔話を聞こう

団体ボランティア「しらかわ語りの会」と当館ボランティアの協力を得て実施した。

②炭づくり

古代の遺跡から見つかったものと同じ伏せ焼きの方法で松材を焼成し、木炭を生成した。

③体験発掘ツアー

田村郡船引町（現田村市）の協力を得て、大平遺跡で実施した。縄文時代の遺物包含層の体験発掘を行った。

④餅つき大会

「奈良時代の家」の再建を記念して、来館者の方々とともに臼と杵で餅をつき、皆で食した。縄文土器に入れられた鮭汁もふるまわれ、終日盛況であった。

⑤双六大会

古代からの盤双六で、まほろんカップ争奪戦としてトーナメント方式で対戦した。

餅つき大会のようす

⑥毬杖大会

まほろんルールを設け、３人１チームで対戦した。優勝旗を用意し、冬季の来館者増をねらって２・３月に２回の大会を実施した。優勝チームには記念品として、まほろん特製コースターが配られた。

イベント実施状況

	内　　容	実　施　日	参加者数
1	昔話を聞こう	５月５日	122人
2	炭づくり	６月５・６日	59人
3	体験発掘ツアー	９月４日	21人
4	餅つき大会	12月５日	420人
5	双六大会	１月９日	16人
6	第１回毬杖大会	２月６日	12人
7	第２回毬杖大会	３月20日	16人

⑶　まほろん森の塾

前年度まで「まほろん探検隊」としていたものを、今年度から「まほろん森の塾」として実施した。今年度の特色としては、縄文時代を中心とした弥生時代までの体験をベースとし、春と秋の２回のお泊り会を行っている。

まほろん森の塾実施状況

	内　　容	実　施　日	参加者数
1	結団式・田植え	５月８日	14人
2	シカの角の釣り針づくりと春のお泊り会	６月12･13日	15人
3	石やじりをつくって弓矢で狩り	７月３日	14人
4	縄文人の耳飾りと土器づくり	８月７日	12人
5	縄文人の櫛づくり	９月11日	10人
6	田んぼで稲刈り	10月16日	16人
7	秋のお泊まり会と解団式	11月６・７日	16人

３．館外体験学習支援事業

通称「おでかけまほろん」という事業である。平成16年度には、４～７月の前期に７回、９～12月の後期に８回の計15回を実施した。

おでかけまほろん実施状況

	団　体　名	学年・科目	体　験　内　容	実　施　日	参加者数
1	喜多方市立慶徳小学校	６年　社会	土器さわり、火おこし、弓矢	４月16日	9人
2	本宮町立五百川小学校	６年　社会	土器さわり、火おこし	４月20日	66人
3	塩川町立駒形小学校	５・６年　社会	土器さわり、火おこし	４月21日	40人
4	相馬市立中村第一小学校	６年　社会	土器さわり、火おこし	４月23日	73人
5	郡山市立片平中学校	１年　社会	土器さわり、火おこし、弓矢	４月28日	38人
6	小野町立飯豊小学校	６年　社会	土器さわり、火おこし、弓矢	５月12日	22人
7	富岡町教育委員会	１～６年　体験学習活動	勾玉、火おこし	７月29日	34人
8	舘岩村立舘岩小学校	全校行事「川遊び」	土器さわり、火おこし	９月１日	78人
9	新地町立駒ヶ嶺小学校	６年　総合学習	土器さわり、火おこし、弓矢	９月20日	21人
10	三春町立三春小学校	６年　社会	土器さわり、火おこし	９月28日	77人
11	猪苗代町立千里小学校	６年　社会	土器さわり、火おこし	９月29日	37人
12	船引町立今泉小学校	５・６年　総合学習	土器さわり、勾玉	10月１日	18人
13	鏡石町立鏡石第二小学校	５・６年　社会・総合学習	土器さわり、勾玉、火おこし	10月５日	69人
14	天栄村立湯本小学校	全校行事「ふれあい交流会」	土器さわり、火おこし、弓矢	10月７日	31人
15	いわき市立石住小学校	１～６年　総合学習	土器さわり、火おこし	10月13日	11人

6　常設展事業

1．常設展示

⑴　構　　成

1）プロムナードギャラリー

①「象徴展示」

②「探してみよう福島の文化財」

③「まほろん周辺の文化財」（パネル展示）

2）常設展示室

①「めぐみの森」

②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉

③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー〈まほろんビデオＢＯＸ〉

④「遺跡を掘る」
サブコーナー〈話題の遺跡〉

⑤「みんなの研究ひろば」

⑥「クイズ福島歴史発見」

⑦「のぞいてみよう福島の遺産」

⑧「しらかわ歴史名場面」

⑨映像展示
「ふくしまの文化財－いのちのかたち」

⑵　展 示 替 え

平成16年度は、以下のコーナーについて展示替えを行った。内容及び展示資料については、以下のとおりである。

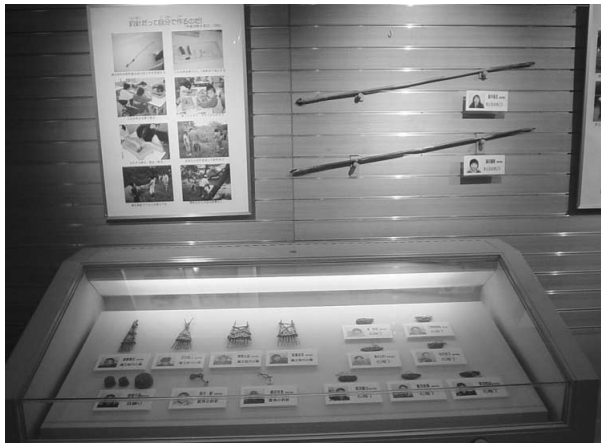
①遺跡を掘る－話題の遺跡－

当館野外展示「奈良時代の家」の再建をうけ、モデルとなった東村（現白河市）谷地前C遺跡27号住居跡の調査成果を紹介し、再建された竪穴住居と見比べながら理解ができるよう配慮した。（「話題の遺跡」展示替え資料一覧参照）

「話題の遺跡」展示のようす

②みんなの研究ひろば

「まほろん探検隊」は、その対象をひろく古代生活全般にわたる体験活動とし、さらにほぼ通年という長期間で実施される。そのため、参加者が発見する喜びを得たり、技術向上を実感できる。そのため、今回は成果を一般に公開し、同時に次年度以降の参加者に対する広報の意味も持たせた。（「みんなの研究ひろば」展示替え資料一覧参照）



「みんなの研究ひろば」のようす

③しらかわ歴史名場面

近年の調査成果により、古代白河郡衙関連遺跡への注目が高まりつつあることをうけ、関和久遺跡出土資料の展示を再構築し、今後の白河郡衙エリア全体の総合的な展示へとつなげる序章とした。なお、鉄づくりイベント報告展示については、隔年で行なわれるイベントであり、野外展示との連携も図れる内容となっている。そのため、次回の鉄づくりイベントの成果を加え、内容を加味しながら継続的に展示することを考えている。（「しらかわ歴史名場面」展示替え資料一覧参照）

⑶　資 料 貸 出

常設展示資料である模型・レプリカの貸出件数は４件である。これは、当館の資料貸出件数全体からみても過半数を占める。また、貸出先でこれらの復元資料が展示されることが当館の広報につながり、来館に結びついている例も少なくない。そのため、今後も復元・レプリカ資

料の製作を計画的に進めていくことが重要と思われる。（常設展示模型・レプリカ資料貸出一覧参照）

⑷　展示資料の損壊等

当館常設展示の特徴として、来館者が観覧時に思わず手が伸びて、偶発的に損壊したというような状況が多いと考えられる。「暮らしのうつりかわり」コーナーは来館者にとっては、食卓の復元という身近な素材を、その場に立っているような感覚で見ることができるという点が、評価されている。そのため、この空間をバリア等で区画するといった処置は、今後も望ましくない。なお、もう一つの特徴として、ブース内で実物資料と復元資料の混合展示になっていることも挙げられるが、現在までの展示品損壊例は全て復元資料に限られる。なお、昨年までの例と同じく、職員が展示品の損壊に気付くのは、団体来館者の多い平日ではなく、一般来館者が中心となる休日の夕方、閉館後であることが多い。

◆めぐみの森

植物造形物のうち、クマザサの折損が15件あった。いずれも導線側の手の届く範囲である。折り取ったクマザサが盗難されることはなく、いずれもブース内に置かれていた。

◆暮らしのうつりかわり

各時代のブースで、食物レプリカの接着部分を剥がす損壊があった。なお、微細な破損の場合は当館職員が合成ゴム系接着剤で接合し応急処置したが、強度的にやや脆弱なため、常設展メンテナンス時に必要に応じて完全に修復した。損壊した展示資料は以下のとおりである。

①昭和40年代…ビールの入ったグラスを床に落とし、破損した。魚肉ソーセージとキャベツ炒めの接着部分が剥がされ、数片が分離していた。

②鎌倉・室町時代…水甕に入っている水の表面を、柄杓で突っついたものとみられ、シリコンゴムで造形された表面に深い亀裂が入った。

③奈良・平安時代…じゅんさいの吸い物の表面に、指で突っついたことによる亀裂が入っていた。

④古墳時代…栗ごはんの表面の米粒がむしりとられていたことが数件あった。

⑤弥生時代…ちまき状赤米の接着面が剥がされ、バラバラになったものが１点あった。

⑥縄文時代…縄文クッキーの接合面が剥がされ、４点が浮いた状態になっていた。

◆暮らしをささえた道具たち

製鉄模型の樹木が折損されることが数件あった。

◆遺跡を掘る

発掘調査模型人形及び、杭の折損が数件あった。完全に折り取られた例はなく、損壊した模型はいずれも模型ベース上にあった。

⑸　メンテナンス

平成16年度の常設展造形・造作物のメンテナンスはノムラテクノ株式会社に委託して行なった。また、AV機器メンテナンスについては、株式会社エイブイセンター及び大槻電気通信株式会社に委託し、2回行なった。なお、今年度も予算減額のため展示什器のメンテナンスは実施していない。ただし、「クイズ福島歴史発見」コーナーの什器扉、及び「暮らしのうつりかわり」鎌倉・室町時代の展示什器の電装修復については、常設展造形・造作物に併せて実施した。

①造形物の修復作業…前項⑷に記した損壊のうち、ビールの入ったグラス１点及び、ちまき状赤米については委託先工場にて修復を行なった。その他については館内で修復を行なった。

②映像機器メンテナンス…映像展示用４面マルチビジョン、及び大型ディスプレイの調整を行なった。その他、重大な故障及び不具合は発生していない。しかし、映像機器として使用しているレーザーディスクの部品供給がここ数年で終了するとのことがあり、今後は次世代メディアへの転換を視野に入れる必要がある。

「みんなの研究ひろば」展示資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
040401～040830	鈴木彩さんの古代米研究part 2	「古代米をそだててみよう！～古代米づくりにちょうせん！」研究ファイルⅡ	1	鈴木彩（浅川町）
		稲束（H13栽培「むらさき米」）	1	
		籾（H13栽培「むらさき米」）	1	
		稲束（H14栽培「赤米」）	1	
		緑豆（H14栽培）	1	
		脱穀に使ったこきばし	1	
040901～050331	まほろん探検隊とは？！	石鏃のついた矢	2	平成15年度まほろん探検隊参加者
		釣竿と鹿角製釣針	1	
		竪櫛	5	
		耳飾り	4	
		鹿角製釣針	2	
		ミニ石庖丁	7	
		活動の記録集	1	
		活動紹介パネル	3	
040401～050331	鉄づくりイベント報告展示	操業記録リーフレット	1	館蔵
		砂鉄	1	
		粘土	1	
		木炭	1	
		羽口復元品	2	
		ノロ	1	
		炉壁	1	
		できあがった鉄	1	
		解説パネル	3	

「話題の遺跡」コーナー展示替え資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
040401～040930	新指定県重要文化財紹介－泉崎村関和久遺跡出土資料－	軒丸瓦・丸瓦	5	館蔵
		軒平瓦・平瓦	3	
		焼けた籾の塊	1	
		円面硯・転用硯	14	
		緑釉陶器・灰釉陶器	11	
		墨書土器	7	
		土師器・須恵器	9	
		手づくね土器	2	
041001～050331	奈良時代の家を復元する－東村谷地前C遺跡の竪穴住居－	土師器坏	3	
		土師器鉢	1	
		土師器甕	1	
		須恵器硯	1	
		須恵器甕	1	
		須恵器坏	1	
		墨書土器「足」他	2	

「しらかわ歴史名場面」展示資料一覧

展示期間	タイトル	資料名	点数	所有者
040401～040930	白河市の文化財「縄文時代」（南堀切遺跡出土品）	深鉢	7	白河市教育委員会
		浅鉢	2	
		有孔鍔付土器	1	
		石冠	1	
		石鏃	19	
		石皿	1	
		磨石	1	
		コハク製玉	1	
		硬玉製玉	1	
041001～050331	明らかになる白河郡衙エリア泉崎村関和久遺跡	軒丸瓦・丸瓦	5	館蔵
		軒平瓦・平瓦	3	
		焼けた籾の塊	1	
		円面硯・転用硯	14	
		緑釉陶器・灰釉陶器	11	
		墨書土器	7	
		土師器・須恵器	9	
		手づくね土器	2	

常設展示模型・レプリカ資料貸出一覧

資料名	貸出先	展覧会名	貸出期間
古墳時代馬具装着馬復元品（1）	福岡市立博物館 香川県歴史博物館 京都府京都文化博物館	展示『百済武寧王と倭の王たち』	040707～041225
複弁蓮華文軒丸瓦（3）ロクロ挽き重弧文軒平瓦（4）丸瓦（6）平瓦（8）各復元品	郡山市教育委員会	『「郡山」地名発祥の地－清水台遺跡－』	040716～040811
弩機復元（1）弩機作動原理模型（1） 弩復元品（1）軍団兵士復元像（1） 軍防令による兵士装備（一括）	新潟県立歴史博物館	展示『越後佐渡の古代ロマン』	041001～041215
石包丁復元品（11）	長沼町歴史民俗資料館	長沼町立長沼東小学校総合学習	041114～041120

7　企画展事業

１．移動展

「新編陸奥国風土記　巻之三　安積郡」
会期：平成16年７月24日～８月８日
会場：郡山市民文化センター
主催：福島県教育委員会･郡山市教育委員会･
　　財団法人福島県文化振興事業団
共催：財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事
　　業団

a　準備作業

４月15日に当館にて、郡山市教育委員会・財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団と本年度第１回目の打ち合わせを行い、開催の形態と会期について話し合いを行った。

その後、５月に正式依頼文書を発送し、６月にかけて、ポスターの製作・発注を共同作業で行った。その中で費用按分の問題等をクリアして、７月初旬にはポスター・リーフレットを各所に送付した。

b　資料の移送と展示作業

７月15日に会場設営を開始し、パネル類や展示ケース等の会場への移動を行った。

７月21日に美術品運搬専用車を使って、遺物資料の移送を行い、23日までに展示作業を完了させた。

c　開会式典と展示

７月24日の展示開始初日に、会場の玄関ホールにて、開会式典が行われた。当館からは藤本館長が出席し、郡山市教育委員会教育長とともにあいさつ・テープカットを行った。

会期中は、初日を含めて３日、職員が会場に行き、資料の補充や展示解説を行った。最終的な展示期間中の観覧者は1,773名となった。

d　撤収と反省点

８月10日に撤収作業を実施し、遺物資料や展示パネル類を当館まで運搬した。翌日、郡山市教育委員会、財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団に終了のあいさつに出向いて、移動展の日程を全て終了した。

反省点としては、前年度から行っていた下打ち合わせが、当該年度に繋がらなかったことがあげられる。今後、移動展を共同で開催する場合、意志の疎通を十分に行う必要があろう。

テープカット

また、展示にあたり、関係者・機関から多大な協力を得られ、さらに周辺市町村からも遺物の借用等で協力を得られたことは、大きな収穫であった。

ポスター

２．まほろん秋のてんじ

「ふくしまの重要文化財Ⅲ
　－考古資料：古墳時代・はにわ編－」
会期：平成16年10月２日～12月５日

趣旨　平成14年度からシリーズ展示として始まった「ふくしまの重要文化財」の第３回目となる。「国指定重要文化財（考古資料）」及び「県指定重要文化財（考古資料）」に指定されている資料のうち、埴輪を中心として古墳時代に属するものを展示公開した。また、あわせて同時代に相当する国及び県指定の史跡をパネルで紹介した。

展示室の外観

内容　県内出土の埴輪を時期的な変化や画期をより明快に理解できるよう、形象埴輪については、ほぼ資料の年代に沿って展示した。円筒埴輪については、埴輪の起源となる壺と器台からの変化について解説するコーナーを独立して設定した。後田古墳の陶棺については、厳密には埴輪とは異なるが、製作技法などに埴輪に通ずると思われる点があり、展示に加えた。ただし、円筒埴輪と同様に独立したコーナーを設定した。

コーナー④最北の孤独の陶棺

展示室の構成としては、南壁から西壁に設置したハイケース内に形象埴輪を展示し、特に埴輪祭祀における人物埴輪の消長について理解できるよう配慮した。北壁と展示室中央については時系列の展示とせず、論点を絞ったトピックス解説的内容に沿う資料を展示した。県内の史跡についてはパネル展示とし、順路最後となる東壁に構成した。展示の各コーナーについては以下のとおりである。

①はにわ人あらわる
　－本宮町天王壇古墳の形象埴輪－
②はにわに見る芸能と風習
　－泉崎村原山１号墳の形象埴輪－
③はにわの時代の終わりに
　－いわき市神谷作101号墳の形象埴輪－
④最北の孤独な陶棺
　－いわき市後田古墳の陶棺－

ポスター

⑤古墳を飾るもうひとつの主役
　－円筒埴輪－
⑥県内の史跡
－はにわが見つかった古墳－
なお、具体的な展示資料の内訳については、別表に記した。

関連行事　関連行事としては、展示期間中に以下の２つの実技講座を設けた。
①実技講座「埴輪づくり」10月24日（日）
②　同　「埴輪の野焼き」11月14日（日）
上記実技講座については、概ね好評であった。そのため、次年度以降の実技講座として、年間行事に組み入れることを考慮する必要がある。

成果と反省　本企画展間中の入館者総数は6,607人、開催期間中の一日平均入館者数は約122人である。今回の展示資料の大部分がいわき市内から出土した資料であったため、いわき市内からの団体での問い合わせ、及び来館が多数あった。広報面からみた今後の課題として、展示の主体となる資料の出土地周辺地域への広報を、より重点的に行なうことも必要と考えられる。

コーナー⑤埴輪の時代の終わりに

展示資料一覧

遺　跡　名	資　料　名　称	点数	市町村	指定種別	所　有　者	保　管　先
天王壇古墳	甲冑形埴輪	1	本宮町	県指定重文	本宮町教育委員会	本宮町立歴史民俗資料館
	女性埴輪（巫女）	1				
	犬形埴輪	1				
	猪形埴輪	1				
	猪形埴輪片	1				
	鳥形埴輪１	1				
	鳥形埴輪２	1				
	小形土製鳥	1				
	鳥形埴輪片（頭部）	1				
	小形土製馬１	1				
	小形土製馬２	1				
	樽形はそう形埴輪	1				
	蓋形埴輪	1				
	朝顔形円筒埴輪	1				
	円筒埴輪	1				
原山１号墳	盾を持つ人	1	泉崎村	県指定重文	福島県教育委員会	福島県立博物館
	冠をかぶった男子	1				
	琴を弾く人	1				
	踊る男子	1				
	盛装の女子	1				
	鳥形埴輪	1				
	冠をかぶった男子（頭部）	1				
	埴輪片（小形壺）	1				
	埴輪片(琴軋を持つ手)	1				
	埴輪片（弓）	1				
	円筒埴輪	1				
	朝顔形円筒埴輪	1				
	埴輪男子立像	1			泉崎村教育委員会	泉崎資料館
神谷作101号墳	埴輪男子胡坐像	1	いわき市	国指定重文	福島県教育委員会	福島県立磐城高等学校
	埴輪女子像	1				
	埴輪跪坐像	1				
	馬形埴輪頭部	1				
	馬形埴輪片（鏡板）	3				
	埴輪片（刀）	5				
	埴輪片（とも）	1				
	埴輪武人像頭部片	11				
後田古墳	陶棺	1	いわき市	県指定重文	いわき市教育委員会	いわき市考古資料館

３．まほろん春のてんじ

「新編陸奥国風土記　巻之四　磐城郡（いわきのこおり）」

会期：平成17年３月12日～５月15日

春のてんじは、『和名類聚抄』に記載される郡ごとの地域を取り上げる収蔵資料展である。４回目となる今回は古代磐城郡として企画され、福島県浜通り地方の南側部分にあたる地域に関わる遺跡の展示を実施した。当館には、常磐自動車道建設に伴って発掘調査が行われた遺跡の資料が収蔵されており、いわき市四倉以北に延びる路線上の遺跡が展示の主体となった。

『和名類聚抄』によれば、古代磐城郡の中には12の郷が存在する。今回の展示は収蔵資料がいわき市四倉以北に偏るため、楢葉町を東流する木戸川流域を「楢葉郷」、いわき市北部を流れる仁井田川上流域を「玉造郷」と想定し、大きく２部構成として行った。

また、「磐城郡」をテーマとする展示としては特定地域に偏重するため、導入部分にいわき市考古資料館、福島県立博物館の協力を得て、古代磐城郡の象徴展示を行った。具体的には「磐城」の文字が残る墨書土器とレプリカの木簡を配列して、古代磐城郡と「楢葉郷」「玉造郷」の位置関係を示した。

［磐城郡　十二郷］

蒲津郷　丸部郷　神城郷　荒川郷　和郷
磐城郷　飯野郷　小高郷　片依郷　白田郷
玉造郷　楢葉郷

⑴　楢葉郷（ならはのさと）

①ヒトの生活のはじまり

楢葉町大谷上ノ原遺跡：後期旧石器時代

２万５千年前の地層から見つかった石器づくりの跡から出土したナイフ形石器、局部磨製石斧等の数点の石器を展示した。当地域の最古段階のものである。

②豊かな縄文のムラ

楢葉町馬場前遺跡：縄文時代中期

馬場前遺跡は、縄文時代中期の大規模集落である。貯蔵穴内から完形品として出土した深鉢形土器の一括資料や、祭祀的な色彩の濃い特徴を有する焼失住居跡から見つかった、特異な形態の香炉形土器等を展示した。

また、その焼失住居跡は堆積状況から土屋根の可能性が指摘されるもので、加工した写真パネル等で説明を加えた。

展示の様子

③平安時代のムラのくらし

楢葉町鍛冶屋・小山Ｂ遺跡：平安時代

鍛冶屋遺跡は平安時代の継続的な集落跡であり、日常に使用された土器類や鉄製品などを展示した。一方、小山Ｂ遺跡からは「報恩寺」の文字が書かれた土師器が出土しており、付近に寺院跡が存在する可能性がうかがえる資料として、同町に所在する赤粉遺跡の例を引用しながら説明した。

④中世楢葉氏と小塙城

楢葉町小塙城跡：室町～戦国時代

小塙城は楢葉氏の居城として伝えられるものである。小塙城跡から出土した14～15世紀頃の青白磁や青磁数点を中心に陶磁器類を展示し、中世岩城氏の侵攻を受けるまでの栄華の様子を示した。また、パネルでは発掘調査時の全景写真を使用して、戦国時代以降の大規模改修など数期にわたる変遷についての説明も加えた。

⑵　玉造郷（たまつくりのさと）

①木の道具づくりのムラ

いわき市大猿田遺跡：奈良・平安時代

大猿田遺跡からは農具や武具等の多様な木製品の未製品が出土しており、それらを展示した。農具の鍬や鋤については木製の柄に刃を装着した状態の復元品も配列した。また、独楽状木製品は挽き物が挽かれていた可能性を示す興味深い資料であり、パネル等で仔細に説明した。

他に遺跡からは20点近くもの木簡も見つかっており、古代磐城郡の郷名と考えられる「玉造」、

「白田」、「判祀」の文字が記されたものを展示した。

②鉄づくりのムラ

いわき市白岩堀ノ内遺跡：奈良時代

白岩堀ノ内遺跡からは製鉄炉跡が見つかっており、写真と図面のパネルを併用して解説した。展示ケースには、実際に遺跡から採取した鉄滓を山のように積み上げ、参考資料として砂鉄と木炭を配列した。

③須恵器づくりのムラ

いわき市タタラ山遺跡：平安時代

タタラ山遺跡からは須恵器窯跡３基が見つかっており、写真パネルで斜面をトンネル状に掘り込んで造られていた様子を解説した。窯跡から出土した資料等数点も合わせて展示した。

④須恵器工人のつくる土師器

いわき市大久保Ｆ遺跡：平安時代

大久保Ｆ遺跡からは、須恵器窯跡とともに30基以上の土師器窯跡が見つかっている。土師器窯跡の写真パネルとともに、同じ工人による製品の可能性を指摘して、土師器杯と須恵器杯とを並べて展示した。

ポスター

展示資料一覧

遺跡名	名　称	点数	保　管　者
荒田目条里	人面墨書土器	1	いわき考古資料館
荒田目条里	２号木簡（レプリカ）	1	福島県立博物館
大谷上ノ原	ナイフ形石器	2	まほろん
大谷上ノ原	楔形石器	1	まほろん
大谷上ノ原	局部磨製石斧	2	まほろん
大谷上ノ原	剥片	数点	まほろん
馬場前	縄文土器	6	遺跡調査部
馬場前	石器	8	遺跡調査部
馬場前	剥片	数点	遺跡調査部
鍛冶屋	土師器	9	まほろん
鍛冶屋	筒形土器	1	まほろん
鍛冶屋	須恵器甕片	数点	まほろん
鍛冶屋	ヤリガンナ	1	遺跡調査部
鍛冶屋	銅鏡「蓬莱の図」	1	まほろん
小山Ｂ	紡錘車	2	遺跡調査部
小山Ｂ	刀子	2	遺跡調査部
小山Ｂ	墨書土器[報恩寺」	1	まほろん
小山Ｂ	墨書土器「少川」	3	まほろん
小山Ｂ	墨書土器「中内」	1	まほろん
小塙城跡	青白磁梅瓶・稜花皿	3	まほろん
小塙城跡	青磁盤・椀	4	まほろん
小塙城跡	白磁皿	6	まほろん
小塙城跡	褐釉四耳壺	2	まほろん
小塙城跡	天目茶碗	2	まほろん
小塙城跡	染付皿	1	まほろん
小塙城跡	硯	1	まほろん
小塙城跡	石臼	3	まほろん
大猿田	１号木簡	1	まほろん
大猿田	２号木簡	1	まほろん
大猿田	５号木簡	1	まほろん
大猿田	墨書土器「玉造」	1	まほろん
大猿田	墨書土器「玉」	1	まほろん
大猿田	刻書土器「厨」	1	まほろん
大猿田	墨書土器「官」	1	まほろん
大猿田	墨書土器「田条」	1	まほろん
大猿田	墨書土器「番」	2	まほろん
大猿田	鍔帯金具（丸鞆）	1	まほろん
大猿田	鍬身	1	まほろん
大猿田	鍬反柄	1	まほろん
大猿田	鎌の柄	1	まほろん
大猿田	斧の柄	1	まほろん
大猿田	曲物の蓋	1	まほろん
大猿田	刳物	1	まほろん
大猿田	独楽状木製品	3	まほろん
白岩堀ノ内	羽口	9	まほろん
白岩堀ノ内	鉄滓		まほろん
白岩堀ノ内	転用硯	1	まほろん
白岩堀ノ内	墨書土器「田条」	1	まほろん
タタラ山	須恵器	4	まほろん
タタラ山	焼成台	1	まほろん
大久保Ｆ	土師器	4	まほろん
大久保Ｆ	焼成台	1	まほろん

4．研究復元

Ⅰ　研究復元の目的

まほろんでは、遺跡から出土した遺物や、確認できた遺構を対象とし、古代の技術や素材をできうる限り検討して、今に甦らせるという研究復元事業がある。これまでに、横穴墓から出土した種々の副葬品(馬具・刀剣・容器類等)や、古墳出土の青銅鏡などを復元しているが、平成14年度からは、「古代の鉄」をメインテーマとし、福島県浜通り地方北部の製鉄遺跡から出土した鋳型から鉄製品を復元したり、砂鉄から鉄を作る古代製鉄炉の復元操業などを行っている。

平成16年度は、製作した鉄製鋳物製品の仕上げ方法を推測し、その工程の復元を行った。

Ⅱ　鉄製鋳物製品の仕上げ

①仕上げ処理を行った鉄製鋳物製品の概要

今回仕上げ処理を行った鋳鉄製品は、平成14･15年度に製作した獣脚付き容器と風鐸及び梵鐘である。これらは、福島県浜通り地方の新地町向田Ａ遺跡と相馬市山田Ａ遺跡から出土した平安時代の鋳型から復元したものである。

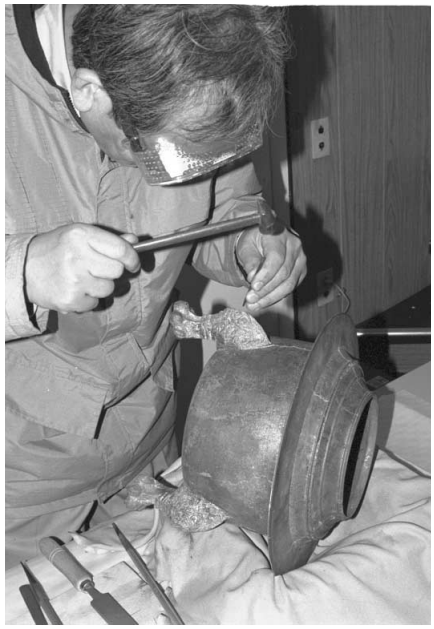
②仕上げ方法の推測

鋳物製品は全て鉄製であるため、当時も何らかの方法で防錆の処置を行ったことが考えられる。ただ、当時の鋳鉄製品の出土例が非常に少ないことと、出土した遺物でも錆化が進んで表面の仕上げ技法がわからなかったため、今回の仕上げ工程の復元では、現在行われている鋳金での方法や、文献資料での記載を根拠に仕上げ工程を復元した。

一般に鋳物の仕上げ工程は、鋳込み後に“型ばらし→仕上げ→研磨・着色”という順序で行われる。「型ばらし」は、鋳型の土を完全に落とす作業で、「仕上げ」は、鋳型の合わせ目にできた鋳張りを取り、細部をていねいに仕上げる作業である。いずれも各種のヤスリ･生下(きさ)げ･ノミ・ハンマー・金床・万力・金鋸・キリなどの道具を使用して行うものである。

次の「研磨」は、鋤栓という刃物で表面を削り、朴炭で磨き、その後、鉄さび、砥石、砥の粉などで磨く。(香取正彦1986「鋳金の伝統技法」『金工の伝統技法』理工学社)。

最後の「着色」であるが、鋳物製品では、大きく分けて研磨の工程までで仕上げが終了する場合と、着色まで行う場合の２通りの処置がある。



仕上げ作業のようす

前述したように、平安時代の鋳鉄製品では、どこまでの処置を行ったかが不明であるが、船引町大鏑矢神社保管の文明19年（1487）銘の御鉄鉢や、磐梯町慧日寺保管の永楽７年（1435）銘の御鉢には、表面に何らかの処理の痕跡が確認されたため、今回は着色までの処置を行うこととした。

着色方法は、

・漆を焼き付ける(漆焼き法)
・油を焼き付ける(油焼き法)
・ワラを燃やしてススを付ける(仮称：稲藁燻し法)
・木炭を燃やし、熱を加える（仮称：炭焼き法）
・赤漆を塗ったり、金箔を貼って仕上げる

この５つの方法を選択した。

漆焼き法とは、赤くなるまで熱した鋳物製品の表面に生漆を塗る方法で、現在でも、鉄釜や鉄鍋の仕上げに使われている。古墳時代の鉄製甲に黒漆を塗っている例や、正倉院文書に記載されている焼き付け漆の記事、正倉院の刀装具の鉄に黒漆が塗られている事例の他、平安時代にまとめられた延喜式のなかにも、大刀や楯を焼塗漆で仕上げた記載が認められる（中里壽克1998「伝統的焼付漆技法の研究－文献に見る焼付漆及びその研究の歴史－」『保存科学第37号』東京国立文化財研究所)。

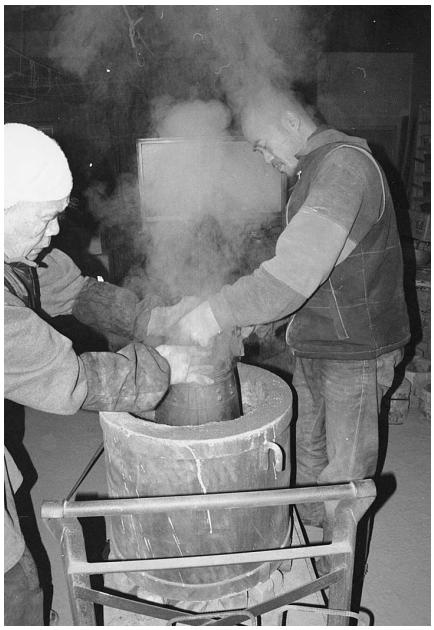
次の油焼き法は、製品の表面に油を塗り、これを焼き切る方法である。これも、現在でも使用されている方法であり、大正時代の塗料を説明した文献にも記載されている（岡山秀吉1922『塗物術』大倉書店)。

漆焼きのようす

仮称稲藁燻し法は、『天工開物』（宋応星著1673年刊、藪内清訳注　平凡社）の「八　鋳造釜」の項の「もし不充分な箇所があれば、すぐに少量の鉄をその上にたらして補修し、藁をぬらして上におさえると痕跡がなくなる。」という文章から推測した。

鋳込みの痕跡がワラをおさえることで消去できるのであれば、逆に、ワラを焼いてヤニを付け定着させる方法を推測したのである。

仮称炭焼き法は、木炭を燃やし、鋳物の表面を赤くなるまで熱し、これにより生じる酸化皮膜で表面をコーティングする方法である。この方法に近いものは、鉄釜の仕上げにあり、明治初年頃、鉄釜の内部を炭火で焼いて、仕上げる方法が考案されたと考えられている（小口八郎『日本の伝統技　術』1975槇書店）。



稲藁蒸し焼きのようす

この他、風鐸は、大阪府海会寺出土青銅製風鐸や、奈良県大安寺出土の金銅製風鐸から赤漆を塗って仕上げたり、金箔を貼ったりした。

以上のような推定根拠により、次のような処置を行った。

③処置一覧

〈獣脚付き容器〉　油焼き法・漆焼き法・仮称炭焼き法（蜜蝋仕上げ）

〈梵鐘〉　仮称炭焼き法（蜜蝋仕上げ）・仮称稲藁燻し法・漆焼き法

〈風鐸〉　漆焼き法・赤漆塗り・金箔貼り

着色した鉄製風鐸
左：金箔貼り　　中：赤漆仕上げ　　右：漆焼き法

着色した鉄製獣脚付き容器
左：漆焼き法　　中：炭焼き法　　右：油焼き法

8　ボランティア運営事業

1．登　　録

平成16年度から、当館のボランティアは、個人登録ボランティアと団体登録ボランティアの２種となった。

個人登録ボランティアに対しては、①登録前のオリエンテーションで活動内容の概要を説明し、②一般研修を受講してもらい、その後に③ボランティア登録希望者が登録手続きを行うという手順で行っている。登録希望者は館長が毎年４月１日付けで、まほろんボランティアとして認定している。平成16年度の個人登録ボランティアは計47名で、ボランティアの出身市町村別や年齢構成については別表に示した。

出身市町村	構成人数	割合（%）
白河市内	29	61.7
県南地域	10	21.3
県中地域	4	8.5
県北地域	2	4.3
県外	2	4.3
計	47	100.0

平成16年度登録者数	47名
平成16年度登録最年少年齢	18歳
平成16年度登録最年長年齢	76歳
平成16年度登録者平均年齢	53.9歳
平成17年度新規登録者対象 登録前説明会参加者	６名
平成17年度新規登録者対象 一般研修受講者数	６名
平成17年度新規登録申込受付期間	９月11日（土） ～ 10月11日（月）
登録前説明会実施日	10月24日（日）

団体登録ボランティアは、団体で登録していただくボランティアで、本年度は「しらかわ語りの会（代表小椋詳子）」が登録した（会員数28名）。

また、年度末に登録更新を行う際、以下の２項に該当する場合には登録の取り消しとすることを「福島県文化財センター白河館ボランティア登録要項」に追加した。

第13条⑶活動時間が年間１時間以下及び活動予定表の提出が１回もなかった場合

第13条⑷政治活動や宗教活動の場として福島県文化財センター白河館を利用した場合

この他、まほろんの活動を支援するサポーターとして平成15年度に試行したまほろんサポーター「U－15」を正式に「Mets」という名称で制度化した。Metsの名称は以下の単語の頭文字をとって命名した。登録者数は14名であり、対象は小学５年生以上である。

Mets：

M…Mahoron（まほろんの様々なことに対し）

E…Educational（教育・育成に関わりながら）

T…Total（総合的に行う）

S…Supporter（援助者）

なお、個人登録ボランティアは研修に参加し自主的な活動によりまほろんを支える役割を持つが、Metsはまほろんの様々な活動に対する補助を行うことになる。相違点は以下の表の通りである。

	登録個人ボランティア	Mets
一般研修	必須（12時間以上）	不要
特別研修	参加可能	なし
活動開始時期	登録後に開始	登録証交付後適宜
活動内容	日常活動と自主活動が主体 ・屋内野外展示の案内 ・体験活動の補助 ・土器づくり ・アンギン編み ・各種案内ツアー ・収蔵資料の修復・復元など	まほろん職員及びまほろんボランティアの指示に基づく補助活動 ・畑、水田等の手入れ ・マキ運び ・体験活動の後片付けなど
保険	ボランティア保険	博物館保険

Mets登録証

2．活動内容

まほろんボランティアの平成16年度における活動内容は以下のとおりである。

○屋内及び野外展示施設の案内・解説

○体験学習の支援

○体験学習器材の製作

○実技講座における支援

○古代の畑の管理などの環境整備

この他、ボランティアの自主活動として以下

のグループが結成され、月１回以上の活動が行われている。

○土器づくりグループ…遺跡出土の土器（主に縄文土器）を模倣製作し、焼成まで行う。

○アンギン編みグループ…古代の畑で栽培しているカラムシから糸を紡ぎ、アンギンや布などを製作する。

○まほろんオリエンテーリンググループ…オリエンテーリングをしながら展示を見学する。

○植物案内ツアーグループ…体験活動広場内にある植物を解説しながら見学する。

○見どころ案内ツアーグループ…まほろんの展示をガイドする。

○収蔵資料の修復・復元グループ…まほろんに保管している収蔵資料を修復・復元する。

さらに、臨時的に活動するグループとして、イベントグループがある。

○イベントグループ…開館記念イベントや、他団体との合同イベントなどを企画・運営する。

団体ボランティアのしらかわ語りの会の活動としては、まほろんイベント「昔話をきこう」や、ボランティアイベント、「餅つき大会」での当館講堂や野外展示の正倉において語り部の活動を行った。

３．ボランティア受け入れ体制

当館のボランティア活動は、交通費や昼食などを支給しない無償ボランティアが原則となっている。ただ、ボランティア活動中の事故等を補償するボランティア保険に加入し、その掛け金（１名あたり500円）は当館で負担している。さらに、ボランティア用ユニフォーム、休憩室用お茶代、ボランティア研修費用等に関しても当館で負担して、活動環境の整備を図っている。

また、屋外及び館内活動中の休憩及びボランティア相互の交流の場としてボランティアルームを体験学習館と本館内に設置し、本館内のボランティアルームには、活動配置表や活動記録簿を配置している。

４．ボランティア担当者の設置

教育普及課に正・副２名、研修課、総務管理課に各1名のボランティア担当者を置いている。主には、教育普及課の担当者が当館の窓口として、ボランティアのスケジュールの調整を行うほか、ボランティアの意見・ニーズの集約などの業務を行っている。また、本年度からボランティア運営協議会を年２回程度不定期に行い、ボランティアの日頃の活動や今後の予定などの意見交換や、館からの要望を検討いただく場を設定している。

５．ボランティア研修

ボランティアを対象とする研修については、主に新規登録希望者を対象にした一般研修と登録ボランティアを対象にした特別研修及び館外研修を実施した。実施した研修については、別表のとおりである。

館外研修のようす

種別	研修№	研　修　項　目	研修実施日
一般研修	1	展示解説　野外展示	16年11月14日
	2	植物観察ツアー	16年11月14日
	3	展示解説　屋内展示	16年11月28日
	4	見どころ案内ツアー	16年11月28日
	5	まほろんオリエンテーリング	16年12月４日
	6	勾玉づくり・火おこし	16年12月４日
	7	土器づくり	17年１月16日
	8	防災と救急の基礎知識	17年２月５日
	9	接遇の基本と実践	17年２月５日
	10	アンギン編み	17年２月20日
	11	考古資料の取り扱い方	17年３月６日
	12	拓本取り・ガラス玉つくり	17年３月６日
館外研修	1	東北歴史博物館「洛陽の夢　唐三彩展」見学	16年10月31日
特別研修	1	土器の修復・復元講習会	16年６月３～４日
	2	高機の整経研修	16年７月16日

なお、新規登録希望者の一般研修では、その一部の講師を、登録ボランティアにお願いした。

６．ボランティア主催のイベント

本年度は三つのボランティア主催のイベントを実施した。

①「まほろん３周年だよ!ボランティア2004」（7月25日（日）実施）

イベントに必要な資金は、白河市内で行われたフリーマーケットへの出店で確保した。イベント当日は親子連れを中心に400名を越える来館者があった。イベントでは、“めざせ！まほろん博士－ウルトラクイズ－”や、“竹トンボづくり”、“昔話をきこう”などの他、表郷和太鼓愛好会の演奏や、発掘戦隊まほレンジャーショーなどを行った。この他、ボランティアの日頃の活動を紹介した「ねぇ　ねぇ　来て　見て　ボラ展」と題した展示も開催した（開催期間：７月24日（土）～８月29日（日））。

展示のようす

まほレンジャーショー

②サザンクロス県南方部とまほろんボランティアの共同開催事業「縄文からのよみがえり」（９月25日（土）実施）

内容は「縄文からのよみがえり」と題した当館学芸員による講演と施設見学、勾玉づくりと縄文食の体験、琴の演奏会の３部構成とした。琴の演奏会の前座として、まほろんで復元した古墳時代の琴での簡易な演奏も行った。

琴の演奏会のようす

③「天平の横笛、ふくしまの横笛」～♪音楽と歴史と伝統芸能のコラボレーション♪～（平成17年３月19日（土）実施）

ドイツ在住のフルーティストでもあり、ドイツ国立トロッシンゲン音楽大学非常勤講師である天田透氏を講師に招聘し、玉川村江平遺跡出土の奈良時代横笛を復元した横笛演奏や、聴衆が持ち寄った各地域の横笛との比較演奏、天田氏による横笛の即興演奏などを行った。

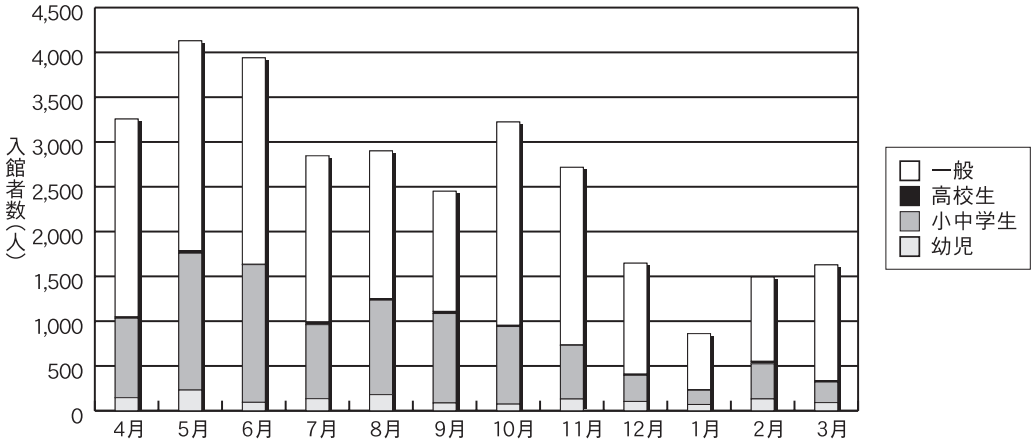
横笛演奏のようす

第５章　平成16年度入館者統計

当館は入館無料の公開施設であることから、徴収観覧料の区別から正確な入館者数等を把握し得ない。そこで、来館者には入館時に居住地（県内は市町村名、県外は県名のみ）・年齢層・人数に関してのみ記帳の協力を得て、できる限り利用者の実態を把握するよう努めている。ここに掲載する利用状況のデータは、入館者の記帳を基にしたデータから作成した統計である。

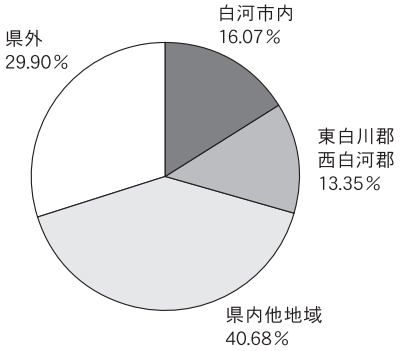
1　月別入館者数

	開館日数	幼　　児	小中学生	高　校　生	一　　般	入館者合計	月別構成比	日平均
4月	25	146	887	15	2,208	3,256	10.47	130
5月	26	231	1,528	28	2,342	4,129	13.28	159
6月	26	94	1,537	4	2,304	3,939	12.67	152
7月	27	135	826	31	1,854	2,846	9.15	105
8月	26	180	1,055	16	1,649	2,900	9.33	112
9月	25	87	998	24	1,341	2,450	7.88	98
10月	27	74	866	14	2,269	3,223	10.37	119
11月	23	131	600	2	1,984	2,717	8.74	118
12月	22	104	292	13	1,238	1,647	5.30	75
1月	23	70	159	4	628	861	2.77	37
2月	24	132	392	28	940	1,492	4.80	62
3月	27	91	230	13	1,294	1,628	5.24	60
合　計	301日	1,475人	9,370人	192人	20,051人	31,088人	100.00%	103人

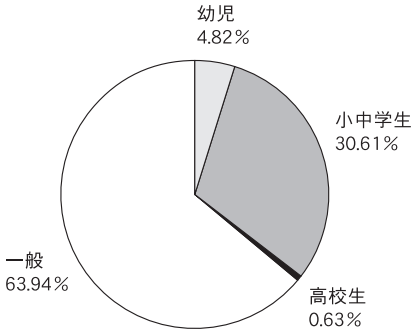


2　区分別利用状況

地域別構成比



年齢別構成比



3　団体利用状況

団体			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学校関係	幼稚園・保育園	園数	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	1	0	6
		入館者数	0	0	24	56	0	0	0	0	48	0	34	0	162
	小学校	学校数	11	10	26	4	2	7	11	5	2	0	4	0	82
		入館者数	525	816	1,246	235	79	492	636	240	66	0	218	0	4,553
	中学校	学校数	2	2	2	4	2	2	1	1	0	0	2	0	18
		入館者数	109	217	83	240	151	170	22	16	0	0	102	0	1,110
	高等学校	学校数	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	5
		入館者数	0	0	6	26	43	22	0	0	0	0	26	0	123
	養護学校	学校数	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
		入館者数	63	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	88
	大学	学校数	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1	1	0	6
		入館者数	0	0	0	41	28	41	42	0	0	46	46	0	244
	小中高ＰＴＡ（保護者のみ）	学校数	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	4
		入館者数	0	0	30	0	0	52	0	0	19	0	0	0	101
	小中高ＰＴＡ（親子レク等）	学校数	0	0	4	0	1	3	1	0	0	0	0	0	9
		入館者数	0	0	197	0	80	218	50	0	0	0	0	0	545
生涯学習関係	研究会	会数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
		入館者数	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	28	41
	子ども会	会数	1	1	1	1	4	0	0	1	1	0	0	0	10
		入館者数	36	26	25	12	143	0	0	13	27	0	0	0	282
	公民館等	館数	0	0	5	2	3	3	10	5	1	0	1	0	30
		入館者数	0	0	111	38	92	52	303	114	30	0	15	0	755
社会福祉関係	福祉施設デイケアサービス	団体数	0	1	5	2	0	1	0	1	0	0	1	0	11
		入館者数	0	16	84	79	0	26	0	13	0	0	76	0	294
文化団体関係	資料館等	館数	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5
		入館者数	0	84	34	24	0	0	0	0	0	0	0	22	164
	歴史研究	団体数	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	5
		入館者数	42	0	0	0	15	0	67	27	0	0	0	0	151
行政機関関係	県・市町村・教委・審議会等	団体数	0	3	1	1	2	3	3	3	0	1	2	2	21
		入館者数	0	118	25	37	38	74	64	42	0	13	31	59	501
その他	その他	団体数	20	28	51	26	17	19	45	47	15	5	9	18	300
		入館者数	1,277	625	1,125	598	421	422	1,018	1,124	300	123	198	383	7,614
合計	団体数		22	50	53	63	73	42	75	64	21	7	24	22	516
	団体入館者数		2,052	1,902	2,990	1,386	1,090	1,594	2,215	1,589	490	182	716	492	16,728
総入館者数			3,256	4,129	3,939	2,846	2,900	2,450	3,223	2,717	1,647	861	1,492	1,628	31,088
団体利用者の割合			63.02%	46.06%	75.91%	48.70%	37.59%	65.06%	68.72%	58.48%	29.75%	21.14%	47.99%	30.22%	53.81%

第６章　まほろんの施設の概要

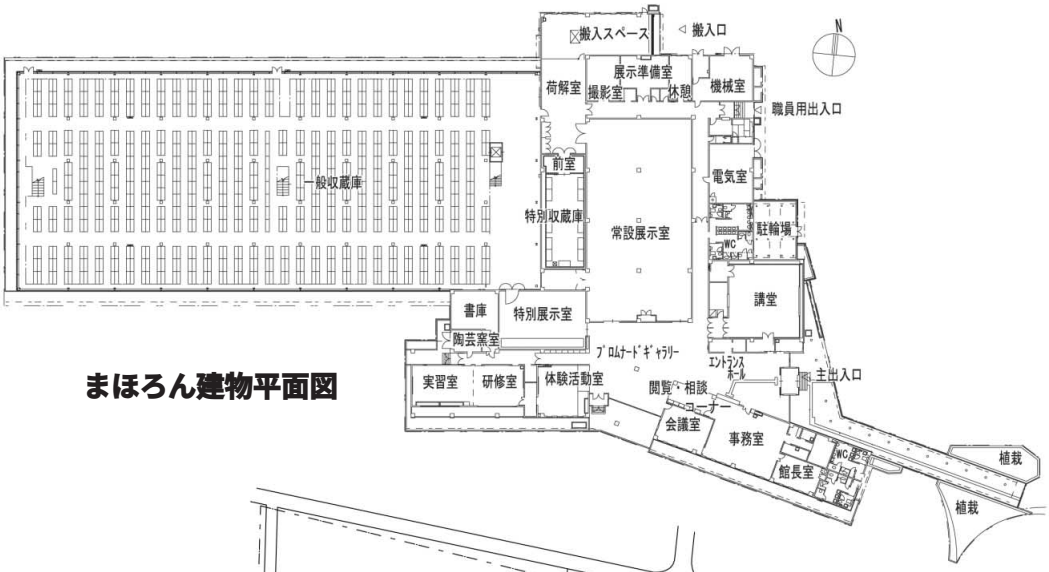
施 設 名：福島県文化財センター白河館
所 在 地：〒961－0835　福島県白河市白坂一里段86番地
設 置 者：福島県
管理機関：財団法人福島県文化振興事業団
開　　館：平成13年７月15日
○建　築
　設　　計：株式会社佐藤総合計画
　工事監理：福島県土木部都市局営繕課・株式会社佐藤総合計画
　施　　工
　建築工事：佐藤工業株式会社・株式会社兼子組特定建設工事共同企業体
　機械設備工事：山田設備工業株式会社
　電気設備工事：福島電設株式会社
○展　示
　設計監理：日精株式会社
　屋内展示製作：株式会社乃村工藝社
　屋外展示製作：株式会社トリアド工房

１　建築概要

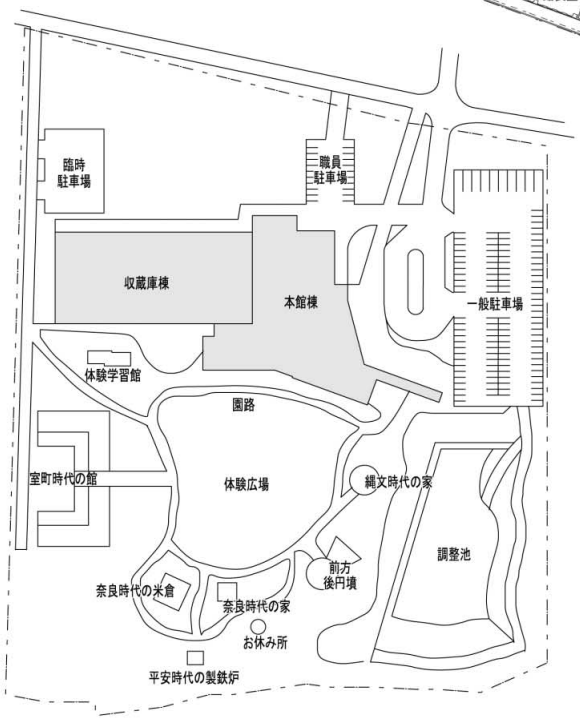
敷地面積：51,827.51㎡
建築面積：本館・収蔵庫棟　5,999.955㎡
　　体験学習館　133.627㎡
延床面積：本館棟　2,400.046㎡
　　収蔵庫棟　2,999.769㎡
　　計　5,399.815㎡
　　体験学習館　92.71㎡
構　　造：（本館棟）鉄筋コンクリート造、（収蔵庫棟）鉄骨造、（体験学習館）木造
規　　模：地上１階（最高高さ10.29m、軒高8.79m、階高４m）
駐車台数：一般駐車場91台（身障者用４台）・大型車駐車場10台・臨時駐車場40台・職員駐車場21台・駐輪場28台
地域地区：都市計画区域内・無指定
主な外部仕上げ
（本館棟）屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、陸屋根：アスファルト防水コンクリート押さえ、外壁：コンクリート打放し一部はつり仕上げフッ素系シラン塗装、建具：アルミサッシ電解着色、外構：インターロッキングブロック（環境整備工事）
（収蔵庫棟）屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：コンクリート打放しフッ素系シラン塗装・押出し成形セメント板フッ素系シラン塗装、建具：スチール製建具
（体験学習館）屋根：フッ素鋼板瓦棒葺、外壁：粒状陶石塗、建具：アルミサッシ電解着色
主な内部仕上げ
（エントランス・プロムナードギャラリー）床：フローリング・花崗岩JB、壁：コンクリート打放しはつり仕上フッ素系シラン塗装・木練付不燃パネル、天井：木練付不燃パネル
（事務室）床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板
（常設展示室）床：タイルカーペット、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板・一部溶接金網メラニン焼付け二重天井化粧石膏ボード
（特別展示室）床：フローリング、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板
（体験活動室）床：フローリング、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音板
（講堂）床：フローリング、壁：腰壁／グラスウール吸音材＋集成材染色塗装、上壁／岩綿吸音板、天井：岩綿吸音板
（研修室・実習室）床：ビニルシート、壁：ガラスクロスビニルエナメル、天井：岩綿吸音
（収蔵庫棟）床：塗り床、壁：木繊セメント板・セメント成型板、天井：木繊セメント板
（体験学習館）床：合板張り一部畳敷き、壁：合板オイル拭き、天井：合板オイル拭き

２　設備概要

◎電気設備：受電方式／高圧6.6KV１回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA、非常照明設備・誘導灯設備：建築基準法に基づいて設置、放送設備：非常放送と兼用・出力240W、電気時計設備・テレビ共同視聴設備・インターホン設備、電話設備：電子交換外線４回線（ISDN）内線55回線、監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停、制御及び計測監視
◎防犯・防災設備
防犯設備：赤外線スペースセンサー・マグネットセンサーを各室に設置し、監視制御システムと併用
ＩＴＶ設備：ＩＴＶを必要箇所に設置し、常設展示室、特別展示室、エントランス・プロムナードギャラリー、搬入口、体験広場の状況を事務室・警備員室で監視
火災報知設備：受信盤Ｐ型１級19回線（自火報）４回線（防排煙設備）、煙感知機66箇所、熱感知機107箇所、ガス漏れ検知器６箇所
防災設備：消火／屋内・屋外消火栓、HFCガス消火方式　排煙／自然排煙
放火扉設備：５回線
雷警報設備：襲雷警報器（コロナーム）、避雷針設備
◎空調設備
空調方式：一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式（一部空冷HP）＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト（空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット）方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト（ガスエンジンHPP）方式、熱源：都市ガス（ガス種別：プロパン）
◎衛生設備
給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流（最終桝でポンプアップ）方式で下水道本管へ放流、雨水；側溝放流
多目的便所：屋内１箇所（男女別）、屋外１箇所（男女別）、トイレ呼出設備付
◎昇降機設備
　荷物用リフター２基
　　一般収蔵庫（油圧式　最大積載量1,000kg）
　　搬入口（油圧式　最大積載量1,000kg）
　工期　着工　平成11年７月12日
　　完成　平成12年10月16日
　建築事業費　2,690,848千円
　公有財産購入費　222,095千円
　その他の経費　387,682千円
　合計　3,300,625千円



まほろん建物平面図



まほろん施設配置図

主要諸室面積表

（単位：㎡）

室　　名	面積	備　　考	室　　名	面積	備　　考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚２層目部分 2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
			撮影室	39	
事務室	104		その他	516	
会議室	47		合計	5,400	
館長室	36				
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9				

第７章　まほろんの条例・規則

１　条　　例

（平成13年３年27日福島県条例第43号）

（設　置）

第１条　地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条第１項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館（以下「白河館」という。）を設置する。

（位　置）

第２条　白河館は、白河市白坂字一里段86番地に置く。

（業　務）

第３条　白河館において行う業務は、次のとおりとする。

⑴　考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

⑵　文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

⑶　文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

⑷　文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

⑸　文化財に関する調査研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

⑹　考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

⑺　前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

（遵守事項）

第４条　白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

⑴　白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

⑵　物品を販売し、又は頒布しないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。

⑶　展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。

⑷　所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

⑸　他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

⑹　前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項。

（入館の規制等）

第５条　教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命じることができる。

⑴　前条の規定に違反した者。

⑵　白河館内の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者。

⑶　館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者。

（使用料の不徴収）

第６条　白河館の使用料は、徴収しない。

（管理の委託）

第７条　教育委員会は、白河館の設置の目的を効果的に達成するため、民法（明治29年法律第89号）第34条に規定する法人であって知事が指定するものに対し、その管理を委託することができる。

２　前項の規定による管理の委託は、同項の知事が指定する法人と教育委員会との協議により、次に掲げる事項を定めて行うものとする。

⑴　委託する施設の名称、位置、構造及び規模。

⑵　委託の年月日。

⑶　管理の方法。

⑷　委託の条件。

⑸　前各号に掲げるもののほか、委託に関し必要な事項。

（委　任）

第８条　この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

２　条例施行規則

（平成13年３月27日福島県教育委員会規則第３号）

（休館日）

第１条　福島県文化財センター白河館（以下「白河館」という。）の定期の休館日は、次のとおりとする。

⑴　月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第３条に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときを除く。

⑵　休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

⑶　１月１日から１月４日まで及び12月28日から12月31日まで。

２　福島県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

（開館時間）

第２条　白河館の開館時間は、午前９時30分から午後５時までとする。ただし、教育長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

（文化財等の特別利用）

第３条　白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

（委　任）

第４条　この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附　則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成13年福島県条例第43号）の施行の日から施行する。

まほろんの利用案内

開館時間　・午前９時30分～午後５時（入館は午後４時30分まで）

休 館 日　・毎週月曜日（国民の祝日の場合その翌日　ただし夏休み期間中は開館）
・国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）、
・年末年始（12月28日～１月４日）

入 館 料　・無料

交通案内　・ＪＲ東北本線白河駅、ＪＲ東北新幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅・白坂行き）まほろんバス停下車
・ＪＲバス（棚倉行き）南湖公園下車25分
・東北自動車道白河Ｉ.Ｃ.から車で20分

そ の 他　・屋内・屋外に多目的トイレを備えています。車いすも用意しています。

福島県文化財センター白河館
年報2005

平成18年３月31日発行

編集　財団法人福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835　白河市白坂一里段86
http://www.mahoron.fks.ed.jp/
発行　福島県教育委員会
〒960-8670　福島市杉妻町２－16
印刷　タヂヒ印刷

表紙デザイン　久家光夫